

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	0 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
中項目	
小項目	0.0.1 建学の精神・教育理念が確立していること。
要素	建学の精神が確立し明確に示されているか。 教育理念が確立し明確に示されているか。
小項目	0.0.2 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること。
要素	教育目的もしくは教育目標が全学的に示されているか。 教育目的もしくは教育目標は定期的に点検されているか。 教育目的もしくは教育目標はどのような手続きで点検されているか。
小項目	0.0.3 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること。
要素	教育目的や教育目標を全学的に学生や教職員が共有するために具体的な施策を行っているか。 日頃から教育目的や教育目標を実現し共有するための具体的な施策について理事会や教授会で議論しているか。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 建学の精神および教育理念を関西学院のミッションステートメントのなかで再確認し、記載方法、内容を再検討し、本学の教育・研究等あらゆる活動の指標とする。	→建学の精神、教育理念の記載方法および内容の再検討の進捗状況。	D	C	A		
2. 学生、教職員対象のオリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム等とおして、本学のミッション、建学の精神、歴史を学内で共有する。また大学案内パンフレット、教育懇談会、実習協議会、入試説明会等とおして、学外への周知を図る。	→オリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム、教育懇談会、実習協議会、入試説明会の実施状況。大学案内パンフレットの記載内容の検討の進捗状況。	C	B	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

★ 小項目0.0.1	0.0.1 建学の精神・教育理念が確立していること。
	(建学の精神の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ → <input checked="" type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	(教育理念の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ → <input checked="" type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
	(ミッションステートメント・建学の精神・教育理念) ・ミッションステートメント：関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とします。 ・建学の精神：関西学院の建学の精神であるキリスト教主義に基づき、聖和短期大学は、神が私たち一人ひとりを愛してくださっていることを知り、イエス・キリストが示された生き方にならって、他者一特に幼い者や社会的に弱くされた者たちに仕える働き人を養成するために建てられている。 ・教育理念：ここに集う一人ひとりの全人的で調和のとれた成熟のために、3つのH-Head：真理の探究、Heart：自分を愛し人を愛する心、Hand：奉仕と実践-を大切にします。 上記については、学生に配布する『要覧』に明示し、入学式、卒業式、オリエンテーション、学校礼拝等とおして学生、教職員に伝えている。また学外に対しては、各種パンフレット、ホームページ等で周知を図り、保護者を対象とした教育懇談会、実習関係先との実習協議会、非常勤講師との懇談会等でも説明を行っている。
(説明) 上記については、学生に配布する『要覧』に明示し、入学式、卒業式、オリエンテーション、学校礼拝等とおして学生、教職員に伝えている。また学外に対しては、各種パンフレット、ホームページ等で周知を図り、保護者を対象とした教育懇談会、実習関係先との実習協議会、非常勤講師との懇談会等でも説明を行っている。冊子「輝く自由～関西学院 その精神と理想」を新入生、教育懇談会で保護者にも配付した。	

<p>★ 小項目0.0.2</p>	<p>0.0.2 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること。</p> <p>(教育目的・目標の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/>ある <input type="radio"/>ない</p> <p>(教育目的・教育目標) 「キリスト教精神に基づく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成」</p> <p>＜めざす人間像＞ (図あり) “Mastery for Service”を体現する世界市民 豊かな専門的知識と理解力、確かな実践力を備え、他者、特に幼い者や社会的弱者への深い愛と共感をもって、隣人・社会・世界に奉仕する人</p>  <p>＜めざす短期大学像＞ 聖和短期大学は、キリスト教主義に基づく＜垣根なき学びと探究の共同体＞をめざし、全人的な教育と創造的な研究により、有能にして心温かい世界市民を社会に送り出すことを使命とします。 ＜ディプロマポリシー (学位授与の方針)＞ 本学は、キリスト教主義に基づき「他者—特に幼い者や社会的に弱くされた者たち—に仕える」働き人を養成する学校としての長い歴史と伝統を受け継ぎ、次のような力を備え、隣人・社会・世界に奉仕する人を育成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育に関する豊かな専門的知識と理解力を備えている。 2. 学んだ知識や技術を活用できる確かな実践力を身につけている。 3. 他者、特に幼い者や社会的弱者を愛し、共感する力を備えている。 <p>(説明) 昨年度に引き続き教授会等で協議を続け、関西学院のミッションステートメントのもとで聖和短期大学が「めざす人間像」「めざす短期大学像」を制定した。またそれに基づきディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを制定、アドミッションポリシーについても再検討した。上記については、2012年度より学生に配付する『要覧』に明示した。</p>
	<p>★ 小項目0.0.3</p>
<p>★ その他</p>	<p></p>

《評価指標データ》

★

★

★

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項**

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目0.0.1	「聖和短期大学のめざす人間像、短期大学像」を制定した。これに基づきディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを制定した。アドミッションポリシーについては、従来のものを再検討し、新たに作成した。
小項目0.0.2	次年度の要覧を作成する1月に学長室会、教授会で点検の機会をもった。
★小項目0.0.3	院長を講師として教職員合同の研修会を実施し、あらためて関西学院のミッションステートメントについて学ぶ機会をもった。
その他	



《次年度に向けた方策(1)》**伸長させるための方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目0.0.1	
★小項目0.0.2	毎年1月に学長室会で定期的に点検を行う。
小項目0.0.3	さらに建学の精神などを共有するために、定期的な研修会を開催する。
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項**

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目0.0.1	
★小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目0.0.1	
★小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎**自由記述**

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○各項目の記述から、聖和短期大学が関西学院との合併後、建学の精神および教育理念を関西学院のミッションステートメントとの関連で組織全体として十分に検討し、具体的に「聖和短期大学のための人間像、短期大学像」等を制定するに至っていることがよく窺えます。それは学外からも注目された合併後の大切な成果として大いに評価できます。今後、その成果を具体的に検証することが期待されます。

○「建学の精神・教育理念が確立している」項目が、2009年、2010年、2011年とD→C→Aに進捗していると評価していることは素晴らしいことです。その根拠として、小項目0.0.1の（説明に）「『要覧』に明示し、入学式、卒業式、オリエンテーション、学校礼拝等をおおして学生、教職員に伝え……、保護者を対象とした教育懇談会、実習関係先との実習協議会、非常勤講師との懇談会等でも説明を行っている。」と説明されています。又、◎効果が上がっている事項「《点検・評価（1）》効果が上がっている事項0.0.3「院長を講師として教職員合同の研修会を実施し、あらためて関西学院のミッションステートメントについて学ぶ機会をもった。」ことにより、全学体制の中で評価がAになったことが窺えます。

○「学生、教職員対象のオリエンテーション……で本学のミッション、建学の精神、歴史を学内で共有する。」で進捗状況が前年同様にBと評価した理由が読み取れません。小項目0.0.2の（説明）を読みますと、努力している様子が見られますので、A評価でも良いのではないかと思います。

【学内】

○「めざす人間像」「めざす短期大学像」を制定するなど、目標の実現へ向けて順調に進展しています。

○短期大学設置基準では、「第二条 短期大学は、学科又は専攻課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則等に定めるものとする。」との記載がありますが、学則に定められているのでしょうか。

○教育理念を明確に定め、それを種々の媒体を通じて公知・公表に努めていること、さらには、入学時のオリエンテーション、毎日行われている学校礼拝、保護者を対象とした教育懇談会、実習関係先との実習協議会、非常勤講師との懇談会、教員・職員合同研修会など様々な場を設定して共通に理解される努力を行っていることは評価できます。

○建学の精神、教育理念に基づいた教育目的・教育目標を定め、その上で、ディプロマポリシー（学位授与の方針）を明確に定めていることは評価できます。

○着々と、体系だっためざす人間像、めざす短期大学像、学位授与方針などを検討、設定されており評価できます。そしてその検討過程も構成員が参加するよう努力されています。今後も定期的な検証が期待されます。

○《現状の説明》、小項目0.0.1の（ミッションステートメント……）の「上記については……」は次の（説明）に記述されており重複しています。

○《現状の説明》、小項目0.0.2の（教育目的・教育目標）における記述が分かりにくいので、整理してください。

○目指す短期大学像や学位授与方針など、ホームページで公表されていますので、このことについて記述をお願いします。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

学内第三者評価＜評価専門委員会の評価＞のコメントについて再検討した結果、

・目標2の進捗評価を「B」から「A」に変更する。

・現状説明小項目0.0.1の（ミッションステートメント・建学の精神・教育理念）の以下の部分を削除する。

「上記については、学生に配布する『要覧』に明示し、…説明を行っている」。

★ ・現状説明小項目0.0.2を次のように修正する。

「（教育目的・教育目標）」→「＜教育目標＞」

・現状説明小項目0.0.2を次の文章と差し替える。

「…上記については、2012年度より学生に配付する『要覧』に明示した」→「…上記については、2012年度より学生に配付する『要覧』に明示し、ホームページ上で公表している。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	1 教育の内容
中項目	
小項目	1.0.1 教育課程が体系的に編成されていること
要素	教育課程には建学の精神や教育理念が反映され、またその内容はそれぞれの学科等の教育目的や教育目標に基づいたものであるか。 教育課程には教養教育への取組みがなされているか。 教育課程は短期大学の専門教育として十分な内容を備えているか。 教育課程の主要な科目に専任教員が適切に配置されているか。 それぞれの授業は短期大学にふさわしい内容とレベルを有しているか。 それぞれの授業の単位認定と評価は適切に行われているか。 教育課程改善への意欲は十分か。また教育課程改善への組織的な対応はなされているか。
小項目	1.0.2 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること
要素	教育課程には免許・資格等の取得への配慮がなされているか。 教育課程の授業形態（講義、演習、実験・実習等）はバランスがとれているか。 教育課程は必修と選択のバランスが適切であり、また選択科目は学生に選択の自由を保障しているか。 それぞれの授業内容に応じたクラス規模は適当であるか。 卒業要件は適切であり、その要件は学生に理解しやすい表現となっているか。 それぞれの授業について学生は意欲を持って履修できるように工夫しているか。
小項目	1.0.3 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること
要素	シラバスあるいは講義要項等が作成され、事前に学生に配付されているか。また学生は活用しているか。 シラバスあるいは講義要項等は授業の概要を示す十分な内容を有しているか。また学生に理解しやすい表現になっているか。 それぞれの授業には教科書、参考書等が用意され、また参考文献等が示されているか。
小項目	1.0.4 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること
要素	学生による授業評価が定期的に行われ、その評価結果が授業改善のために活用されているか。 短期大学全体の授業改善（FD活動等）への取組みは活発か。また授業改善のための組織等が設置され活発に活動しているか。 それぞれの授業の担当教員は授業改善への意欲を持っているか。 授業担当者間での意思の疎通、協力・調整はなされているか。また兼任教員（非常勤講師）との意思の疎通はなされているか。 授業改善や教員の能力開発のための経費は準備されているか。 授業改善を支援する職員の研修（SD活動等）は、定期的に行われているか。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目標にもとづいた教育課程編成の方針の明示。	→教育課程編成の方針の明文化、「要覧」「履修の手引き」への記載、履修指導の説明の時間等の充実	C	C	A		
2. 実践力を培うために保育現場と連携した授業実施。	→保育現場と連携した授業内容の検討及び実施状況。	C	B	B		
3. 保育職の専門性向上のため、旧教員・卒業生などの積極的活用。	→旧教職員・卒業生などとの連携状況。	C	B	B		
4. シラバスの記載内容の充実、不完全シラバスをなくす。	→不完全シラバス数、シラバス記載内容の変更。	C	B	A		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
FD検討会の活性化、学外研修などの活用により、現状以上に授業を改善する	→FD検討会の内容、方法の再検討、全国保育士養成協議会主催のセミナーおよび研究大会への積極的な参加、研究発表など	C	C	B		

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目 1.0.1	<p>1.0.1 教育課程が体系的に編成されていること</p> <p>本学の教育課程は、建学の精神、教育目標等に基づき、さらに130年の伝統を引き継いで編成されている。幼稚園・保育所・児童福祉施設などにおいて幼い子どもの育ちを支える保育者には、豊かな人間性、子どもに対する正しい発達観、どのような子どもを育みたいのかという保育観が求められ、その土台は学生一人一人の職業倫理をも含めた教養である。しかし、近年の学生の様子の変化は保育を学ぼうとする者にも顕著に現れ、さらなる工夫が必要である。今年度は関西学院のミッションステートメントのもと、新たに下記のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを制定し、教育の方針等の確認をした。幼稚園教諭養成課程については、所轄官庁の文部科学省に教育課程、教員の担当科目・業績などを届け出ている。保育士に関しては、所轄官庁の厚生労働省から「指定保育士養成施設基準」が通知され、そこには教育課程や教科目の単位数、授業形態である講義・演習・実習の区別、演習科目当たっては1クラス50名以下、出席と評価の方法、さらに、教科目の授業内容についてもシラバスが提示されておりこれを遵守している。2011年度より「指定保育士養成施設基準」の変更のため、教育課程、開講科目、担当者を所轄官庁に変更届けを出し許可を受け、新教育課程で運用をしている。</p> <p><ディプロマポリシー（学位授与の方針）> 本学は、キリスト教主義に基づき「他者—特に幼い者や社会的に弱くされた者たち—に仕える」働き人を養成する学校としての長い歴史と伝統を受け継ぎ、次のような力を備え、隣人・社会・世界に奉仕する人を育成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育に関する豊かな専門的知識と理解力を備えている。 2. 学んだ知識や技術を活用できる確かな実践力を身につけている。 3. 他者、特に幼い者や社会的弱者を愛し、共感する力を備えている。 <p><カリキュラムポリシー>（教育課程編成・実施の方針）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践の基礎となる人間観、子ども観、教育・保育観を学ぶとともに、子どもの成長を援助するために必要な知識、方法、技術の総合的な理解、修得をめざす。 2. 実習を重視し、事前事後指導を充実して実践力の向上をはかる。 3. キリスト教主義教育をとおして人格の完成をめざし、修得した知識や実践力を活かして隣人、社会、世界に奉仕する力を育てる。
★ 小項目 1.0.2	<p>1.0.2 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること</p> <p>本学の教育課程は、幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得できるように編成され、これらをベースに児童厚生指導員、認定ベビーシッター、社会福祉主事任用資格の資格も取得できるように編成しており、幼稚園・保育士の免許・資格に関しては多くの学生が修得している。しかし、これらの免許・資格を修得するためには、現状説明小項目1.0.1のように所属官庁の指導を受けており、短期大学の修業期間である2年間において選択科目の充実が難しいのが現状である。2年生など何らかの事情で過去に単位を取得できなかった学生には個別に履修指導を行った。保育現場と連携した授業の実施については、1年次の「基礎演習」において聖和幼稚園と連携し、全員が行事の手伝いをおして教材の準備をする時の注意等を保育者より直接学ぶなど、保育者となる意欲を高めている。</p>
小項目 1.0.3	<p>1.0.3 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること</p> <p>新入生はオリエンテーション時に、在生は登校日に「要覧」「履修の手引き・開講科目教科内容」を用いて、教育課程、授業計画について説明し、シラバスに記載されている授業内容や評価方法、テキストについて説明している。また、それぞれの教科目の初回授業においてもオリエンテーションを行い、評価方法などを説明している。保育士養成課程の所管官庁の指導により、シラバスには15回の授業内容、成績評価基準、テキストが記載されるなど充実し、不完全シラバスはなくなった。</p>
小項目 1.0.4	<p>1.0.4 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること</p> <p>授業評価アンケートに関しては、春学期秋学期とも全科目を対象に実施している。授業評価アンケートの回収については、公平性を保つため担当教員に提出するのではなく、受講生の手によって回収し、事務室に提出してもらっている。評価結果については、掲示板で公表し、各教員には担当科目の結果を配布している。専任教員に対しては、教員養成課程や保育士養成課程の改定の内容を遵守するため、シラバス作成時に「幼稚園教育要領」や「指定保育士養成施設基準」等を配付し依頼した。非常勤講師に対しては、「指定保育士養成施設のカリキュラム改正について」の担当科目の関連箇所をシラバス作成時に配付している。また、専任教員のみならず非常勤講師との情報交換会においても個人情報取り扱いについて説明を行った。さらに、年に4回のFD検討会を開催している。今年度は職員の自己啓発研修「保育や学校の現場で求められる保育者像や教師像についての一考察」の成果を教員が学ぶ機会をもった。</p>
その他	

《評価指標データ》

★
★
★

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目 1.0.1	
小項目 1.0.2	在学するほとんどの学生が幼稚園免許・保育士資格を取得し卒業している。またその他の資格についても、積極的に取得する姿がみられる。(2011年度免許・資格取得状況 卒業生149名中、幼稚園教諭二種免許状146名、保育士資格130名、児童厚生二級指導員資格81名、認定ベビーシッター資格116名、進路状況(就職)幼稚園68名、保育所67名、保育所以外の児童福祉施設3名、公務員(保育士)1名、企業2名、進学4名、その他5名、未決定0名)
★小項目 1.0.3	
小項目 1.0.4	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策(伸長させるための方策)は次のとおりである。

小項目 1.0.1	
小項目 1.0.2	
★小項目 1.0.3	
小項目 1.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目 1.0.1	
小項目 1.0.2	
★小項目 1.0.3	
小項目 1.0.4	現在実施している授業評価アンケートの評価項目の内容等について検討ができていない。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策(改善方策)は次のとおりである。

小項目 1.0.1	
小項目 1.0.2	
★小項目 1.0.3	
小項目 1.0.4	2013年度新たな項目での実施を目指して、評価項目等について検討する。
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○2年間という修業期間において「学生の多様なニーズに応える」（小項目1.0.2）ことは確かに難しいことだと思います。それにも拘らず主たる資格（幼稚園教諭免許および保育士資格）以外の児童厚生指導員や認定ベビーシッター資格を多くの学生が取得していることは評価できます。ただ社会福祉主事任用資格については、資格取得者数が記されていないことから推するに、あまり実際的ではないのでしょうか。もしそうであれば、そのために必要な科目はごくわずかだと思いますが、再検討されて、また新しい教育内容あるいは資格の可能性を探られたらいかがでしょうか。

○設定した4項目の目標の中、2項目にAと評価されたことは大変好ましいと思います。特に「1. 教育目標にもとづいた教育課程編成の方針の明示。」ではC評価からA評価に進捗したことの努力は賞賛すべき事です。また、「4. シラバスの記載内容の充実、不完全シラバスをなくす。」もAにしたことは学生と教師の約束が確実に成り、授業の内容が充実したことに繋がりますので、全ての教師の努力が実ったのだと思われます。「2. 実践力を培うために保育現場と連携した授業実施。」では、資格免許の履修状況や就職状況が明確に示され全体像が把握できます。この項目の評価がBなのは、保育現場との連携が具体的に計画されていないためでしょうか。「3. 保育職の専門性向上のため、旧教員・卒業生などの積極的活用。」は、個人情報の取り扱いや、現場幼稚園教諭や保育士の業務の多忙生から難しい点があると思いますが、身近な卒業生活用は効果的ですから、連携を強めていくことを期待します。

○研究発表やセミナーなどへの参加は、授業改善に繋がりますので学校として参加体制を確立することが望まれます。

【学内】

○所轄官庁の通知などに基づいて教育課程が編成されています。不完全シラバスがなくなるなど、改善が見られます。

○教育課程について、幼稚園教諭養成課程は文部科学省に教育課程、教員の担当科目・業績などを届け出て認められています。保育士に関しては、厚生労働省からの「指定保育士養成施設基準」を遵守した課程となっており、いずれも適切です。

○カリキュラム、シラバスについて、ホームページで分かり易く公表されており評価できます。シラバスの項目は「授業のテーマ・ねらい」「授業計画」「成績評価基準」「テキスト」となっています。「授業のテーマ・ねらい」では、「授業の目的」については書かれているものの、「到達目標」については書かれていないものがあり、精粗が見受けられます。その精粗を無くすためには、シラバスの項目の工夫が必要ではとされます。

○授業内容、教育方法に改善への努力について、教員だけのFDに留まらず、職員と合同して行っていることは、まさに教職協働の事例として評価できます。

○「保育職の専門性向上のため、旧教員・卒業生などの積極的活用」を目標に定めていますが、その状況はいかがでしょうか。

○本項目は毎年変動することが少ないと思いますが、要素を参考にして点検・評価することで改善に繋がります。報告書においては全ての要素に触れる必要はありませんが、その観点を忘れないようにしてください。記述は誠実です。

○昨年度、効果が上がっている事項の小項目1.0.2において、人数に加え割合が示されていました。明示されることを希望します。

○昨年度の伸ばさせるための方策、小項目1.0.2に記述されたことが本年度のシートに出てきません。PDCAが繋がっているかの確認ができませんので記述が求められます。改善すべき事項も同様です。

○改善すべき事項に、アンケートの検討をあげられていますが、昨年度もあげられて実行できていませんので、より具体的な方策を立てる必要があります。

○年4回のFD検討会を継続されています。

○カリキュラムポリシーがもう少し詳細であっても良いように思います。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

・効果が上がっている事項小項目1.0.2を、次の文章と差し替える。

「在学するほとんどの学生が幼稚園免許・保育士資格を取得し卒業している。またその他の資格についても、積極的に取得する姿がみられる。（2011年度免許・資格取得状況 卒業生149名中、幼稚園教諭二種免許状146名 98%、保育士資格130名 87%、児童厚生二級指導員資格81名 54%、認定ベビーシッター資格116名 78%）」

★

・改善すべき事項小項目1.0.2に次の文章を追加する。

「保育行政の動向と課題に対応した教育課程の編成」

・改善方策小項目1.0.2に次の文章を追加する。

「保育行政の動向と課題についての情報の収集」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	2 教育の実施体制
中項目	
小項目	2.0.1 教員組織等が整備されていること
要素	設置基準の教員数の規定(教授数を含む)を充足しているか。 教員は学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しているか。 教員の採用、昇任はその選考基準等が整備され適切に行われているか。 教員の年齢構成はバランスが取れているか。 教員は、(a) 授業担当、(b) 研究活動、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に意欲的か。 助手、補助職員等が確保され、教育活動等に機能しているか。 教育実施にあたる責任体制は確保されているか。
小項目	2.0.2 教育環境が整備・活用されていること
要素	保有する校地の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校地は教育環境として適切に整備されているか。 保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校舎は授業や学生生活のために常に整備され快適な環境となっているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室を十分に用意しているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい情報機器を設置するパソコン教室、マルチメディア教室、LL教室は整備されているか。また学生自習室等は整備されているか。 授業用の機器・備品についてその整備システムが確立しているか。また、それぞれの授業を行うための機器・備品は十分に備わっているか。 保有する校地と校舎は学生や教職員の安全性に配慮しているか。また障害者に対応したのものとなっているか。 適切な広さの運動場、体育館を有しているか。
小項目	2.0.3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること
要素	図書館(以下、学習資源センター等を含む)の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は、在籍学生数に比し適当か。 図書館の広さは充分であり、その環境は適切に整備されているか。また蔵書数の増加等、将来に備えたものとなっているか。 年間の図書(以下、学術雑誌、AV資料等を含む)購入予算は充分か。また購入図書選定システムや廃棄システムは確立しているか。 図書館には学生が利用できる参考図書、関連図書は十分に備えられているか。 司書数、司書の能力、図書検索システムなどを含む、図書館のサービス体制は充分か。 学生の図書館利用を活発にするための努力は行っているか。 学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など、図書館活動は活発か。

II. 自己点検・評価(2011.5.1~2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育実績、研究業績、社会的活動等短期大学教員として必要な資質の向上	→研究活動、社会的活動に関する報告書提出の徹底および情報公開の実施	C	B	B		
2. 学生の図書館活用能力を向上させ、短期大学図書館の入館者数、貸出冊数を1.5倍にする	→オリエンテーションの実施状況およびアンケート調査結果、入館者数、貸出冊数、ホームページ、OPAC、電子ジャーナルへのアクセス数等	C	B	B		
				☆		
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目2.0.1	2.0.1 教員組織等が整備されていること (説明) 大学教員として必要な資格および資質に関しては、幼稚園教諭免許の課程認定委員会の教員審査を受けている者が全体の教員数の66%となっている。また、短期大学の過密なスケジュールのなかで授業を工夫し、年々、多くの時間を要する実習や就職指導等、学生指導を熱心に行い、校務分掌も担当している。教員の採用、昇任については「聖和短期大学教員選考基準」「聖和短期大学教授、准教授、助教及び専任講師の任用に関する規程」等に基づき実施している。2011年度専任教員数15名(教授8名、准教授4名、専任講師3名)
小項目2.0.2	2.0.2 教育環境が整備・活用されていること (説明) 関西学院大学教育学部が同じキャンパスにあり、諸施設を共同で利用しているが、校地、校舎については設置基準を満たし、講義室、演習室、美術室、家庭科室、理科室、小児保健実習室、ピアノレッスン室、ピアノ練習室、PC教室等が整備されており、すべての講義室にAV機器が設置されている。短期大学図書館には4つの閲覧室およびパソコンルーム、AV室が配備されている。安全性、障害者への対応については、EV、障害者トイレ、点字ブロック、スロープ等の設置および避難路表示等で対応している。また関西学院上ヶ原キャンパスにある大学図書館等の諸施設についても利用できる。
小項目2.0.3	2.0.3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること (説明) 短期大学図書館は、西宮聖和キャンパスにおける短期大学の教育・研究の直接的な支援機関として、活用されている。2011年度も短期大学用の図書1,700冊あまりが購入され、日々資料の充実が図られているところである。他キャンパスの大学図書館からの資料取り寄せなども増え、安定したサービスが供されている。また、学生からの要望が出されたことをきっかけに、2012年度から開館時間を延長した(授業期間の平日1時間、土曜3時間)。
その他	

《評価指標データ》

★	
★	
★	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	
小項目2.0.3	2011年度の入館者数は49,704人と、2010年度に比べて約13%増加している。また、2011年度の貸出点数は24,719冊で、2010年度比約25%増である。これらは、西宮聖和キャンパスの学生数の増加もあるが、毎年度短大・教育学部の新生全員に行っている館内オリエンテーションによる効果が出ていると考えられる。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策(伸長させるための方策)は次のとおりである。

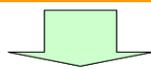
小項目2.0.1	
小項目2.0.2	
小項目2.0.3	2011年度から、短大2年生や教育学部4年生らを主な対象に、やや高度な文献や学術情報に関するガイダンスを実施している。今後これを積極的に展開し、さらに図書館を活用できる学生を増やしていく。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価 (2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	
★小項目2.0.3	図書の貸出数などは年々増加しているものの、まだ十分に図書館が活用されているとは言い難い。図書はもちろん、雑誌や新聞、Webデータベースの情報などを含め、広く図書館が活用されるようにしていく必要がある。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	
★小項目2.0.3	上記ガイダンスに加え、ホームページでの発信や掲示を通じ、様々な図書・資料や情報の利用方法があることを周知し、図書館を活用してもらおう。これらの成果は入館者数・貸出数に反映され、それらで評価することができる。
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	資料の増加、開館時間の延長などにより、さらに図書館が活用されることが期待される。こうした図書館の魅力を、ガイダンスを通じて広く学生に周知すべく努力する。
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 <評価専門委員会の評価>

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○小項目2.0.2「教育環境が整備・活用されていること」に関して、関西学院大学教育学部との共用ではあるが講義室・演習室が整備され、さらに障害者への対応も種々なされてきたようです。合併時に、関西学院大学教育学部の完成年度を迎えたときには講義室等の不足が生じるのではなかと心配されていたことを思えば大いに評価できます。

○「1. 教育実績、研究業績、社会的活動等」の評価が昨年同様にBであることは残念です。「幼稚園教諭免許の課程認定委員会の教員審査を受けている者が全体の教員数の66%となっている。」との記述がありますが、それは過去の業績で、現在では最近5年間の業績が重視されています。過密なスケジュール、実習や就職指導と多忙とは思いますが、まず、自分の担当する授業に関する研究が重要ですので、学校として支援体制を確立することが必要です。

○図書館は知識の源であり、学生には活用して欲しいものです。図書も多数購入され、開館時間を延長したりして充実しているようですので、授業等で教員が利用を促すきっかけを作るのも必要だと思われます。

【学内】

○図書館活用の推進の取り組みが大変評価できます。

○教員数については、短期大学設置基準における「学科の種類及び規模に応じ定める専任教員数」は10名求められます。さらに、「短期大学の入学定員に応じ定める専任教員数」は3名求められ、計13名が必置教員数です。またその内4名が教授とする、となっています。一方、聖和短期大学における2011年度専任教員数は15名であり、内8名が教授であり、適切です。

○年齢構成については、進捗状況報告シートでは読み取れません。

○「幼稚園教諭免許の課程認定委員会の教員審査を受けている者が全体の教員数の66%となっている」ということは、その質が担保されている証だと評価します。

○校地、校舎について、設置基準では校地面積は3,000㎡、校舎面積は2,850㎡必要とされています。現校地面積は5,788㎡、校舎面積は4,546㎡であり、充足しています。

○教育学部と諸施設を共同利用していることに対し、不自由な点等はないのでしょうか。

○図書館等の席数はいかほどでしょうか。それは在籍学生数に比して適切でしょうか。

○2012年度から開館時間を延長したとのことですが、授業期間の平日、土曜は何時から何時までの開館となっているのでしょうか。また日曜はいかがでしょうか。

○短期大学図書館の入館者数、貸出冊数についての考察はどのようなものでしょうか。

○全ての項目に共通ですが、要素を参考にして点検・評価することで改善に繋がります。報告書においては全ての要素に触れる必要はありませんが、その観点を忘れないようにしてください。

○昨年度、改善すべき事項において、講義室等の増設があがっています。本年度のシートにはどこにも関連する記述がありません。PDCAを確認するためにも記述が必要です。また、昨年度の学内委員のコメントである「どれ程講義室が不足するのか」を明示する必要があります。

○昨年度もコメントしていますが、図書館の蔵書数は示す必要があります。

○図書館の利用者が増えています。昨年度示された伸長させるための方策が効果をあげたのでしょうか。また、改善方策に示された方策が効果を上げたのでしょうか。これらが示されることによってPDCAが確認でき、次の改善策に繋がります。

○図書の貸出点数の率ですが、2010年度は21,033と昨年度示されました。2011年度は24,719であると前年比18%増となり、記述の25%増とは異なります。

○上記から、昨年度のコメントを再掲します。「図書館の蔵書数、利用者数、利用率、貸出冊数、座席数、座席数の割合などは経年データをシートに貼り付けることをお考えください。目標にも入館者数、貸出冊数を1.5倍にすると示されていますので、その指標としても経年データが必要でしょう。」

○図書館入館者数、貸出冊数は短期大学学生だけの数字でしょうか。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

III. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

- ・現状説明小項目2.0.1に次の文章を追加する。
「教員の年齢構成は、30～39歳1名、40～49歳5名、50～59歳6名、60歳～3名である。」
- ・改善すべき事項小項目2.0.2に次の文章を追加する。
「講義室、実習室等については、関西学院大学と共用しており、教育課程等の変更に伴い不足する可能性がある。」
- ・改善方策小項目2.0.2に次の文章を追加する。
「講義室等の増設。」
- ・座席数に対する質問について：現在315席を備えており、学生数比で約18%と大学図書館以上の環境を整えている。
- ・開館日時に対する質問について：授業期間は平日20時（土曜15時）まで、授業期間外は平日18時（土曜12時）まで、日曜・祝日は原則として休館としている。
- ・入館者数・貸出数に対する考察指摘について：いずれも学生数の増加と相まって、徐々に増加しており、好ましい状況と認識している。今後、活動の指標の一つとして入館・貸出数が伸びるよう、レファレンス・広報などの強化を図っていきたい。
- ・貸出数等に対する指摘について：前年度掲載した2010年度貸出冊数は一部別の数値を含んでしまっており、本調査上では19,749点と記載すべきものであった（この数字では、「約25%増」という記載どおりになる）。ここに訂正するとともに、今後は統計の収載範囲を明確にし、注意を払うようにする。
- ・蔵書数等に対する指摘について：所蔵冊数は、2011年度末で190,238冊である（教育学部資料含む）。主な利用データについては、このコメント欄の下に表を掲載するので、ご覧下さい。
- ・入館者数、貸出冊数は短大生のみが対象かとの質問に対して：これらの数字は短大生に限らず、教育学部生等他の利用者も含まれている。
- ・蔵書数等に対する指摘について：所蔵冊数は、2011年度末で190,238冊である（教育学部資料含む）。

各種利用統計（2009～2011年度）

各種利用統計（2009～2011年度）				
				聖和短期大学図書館
1. 蔵書数				
年度	点数	2009年度比 (%)		
2009	174,460	-		
2010	182,167	104.4		
2011	190,238	109.0		
<small>(教育学部資料を含む)</small>				
2. 構成人員数				
年度	人数	2009年度比 (%)		
2009	1,678	-		
2010	1,861	110.9		
2011	2,063	122.9		
<small>(西宮聖和キャンパスの構成人員数、非常勤教職員等を含む)</small>				
3. 貸出冊数				
年度	点数	2009年度比 (%)		
2009	16,751	-		
2010	19,749	117.9		
2011	24,719	147.6		
4. 座席数				
年度	席数	2009年度比 (%)	学生数比 (%)	
2009	315	-	22.5	
2010	315	100.0	19.9	
2011	315	100.0	17.6	
5. 入館者数				
年度	人数	2009年度比 (%)		
2009(※)	17,194	-		
2010	43,998	149.3(※)		
2011	49,704	168.6(※)		
<small>(※)2009年度は、8月下旬から入館管理システムを導入し、集計開始。年間に換算すると、29,475人となる。</small>				
<small>各年度の「2009年度比」は、2009年度入館者数を上記29,475人と見なした際の比率。</small>				

☆

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	3 教育目標の達成度と教育の効果
中項目	
小項目	3.0.1 教育目標の達成への努力がみられること
要素	それぞれの授業の単位認定の方法(試験、レポートや制作物の提出等)は適切か。また単位の取得状況は妥当な範囲であり、担当教員による学習評価は適切に行われているか。 担当教員は、授業終了後の学生の満足度に配慮しているか。 退学、休学、留年等の学生の全体の学生に占める状況は妥当な範囲か。またそれらの学生に対するケアは充分か。 資格取得の取組みと実績は充分であるか。 編入学希望に対応しているか。
小項目	3.0.2 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること
要素	専門就職(学習した分野に関連する就職)の割合は充分か。 卒業生の就職先からの評価について意見を聴取しているか。 教育の実績や効果を確認するために卒業生との接触、同窓会との連携等は行われているか。 編入先からの評価について意見を聴取しているか。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生による授業評価アンケートの内容を再検討し、授業評価方法の改善を行う	→全授業科目の授業評価アンケートの実施、内容の検討状況	C	C	C		
2. 免許・資格を取得するための個別的な指導と支援を強化し、実績を維持する	→希望者の免許・資格取得の割合、ガイダンスの実施(回数及び参加者数)	C	B	A		
3. 卒業生に対する就職先からの評価方法の検討および実施	→評価方法の検討と進捗状況	D	D	C		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目3.0.1	3.0.1 教育目標の達成への努力がみられること (説明)各教科の単位認定(評価)については、年度初めに学生に配布する「履修の手引きー開講科目教科内容ー」に各教科の評価方法を記載し、初回授業においても詳細を説明している。免許・資格を取得するという目的意識を持って勉学しているため、本学の学生の授業回数15回の出席率は、95%を超えている。ほとんどの学生が幼稚園教諭・保育士の免許・資格を取得し、さらに児童厚生員、認定ベビーシッター、社会福祉主事任用資格も取得している。(卒業生149名中、幼稚園教諭二種免許状146名、保育士資格130名、児童厚生二級指導員資格81名、認定ベビーシッター資格116名が取得)全学生321名のうち退学5名、除籍1名、復学は1名であった。単位取得状況および単位認定は教授会において、学期毎に成績報告会を開催し、確認している。関西学院大学教育学部および人間福祉学部との間に指定校推薦編入学制度を設けている。2011年度は「保育・教職実践演習(幼)」の授業の中で、履修カルテを作成し、学修を振り返る機会となった。授業評価アンケートは全科目にわたり実施し、評価結果を掲示している。各科目の評価結果については担当教員に配付している。
☆ 小項目3.0.2	3.0.2 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること (説明)2011年度の進路決定状況は次のとおりである。(2011年度進路状況<就職>幼稚園68名、保育所67名、保育所以外の児童福祉施設3名、公務員(保育士)1名、企業2名、進学4名、その他5名、未決定0名)取得資格を活用して就職した学生は、2011年度は全体の約93%であった。卒業生の評価については、キャリアセンター分室の職員が前年度卒業生の就職先を訪問し、近況を聴取している。また、教員が実習先の巡回時などに、意見などを聴取している。その他、兵庫県や大阪の幼稚園・保育所・施設などの各種団体と養成校との懇談会にも出席し、情報交換の機会をもっている。また、年に1度卒業生と教員が交流するホームカミングデーを開催しているが、今年度は台風のためやむなく中止となった。編入生の評価については、関西学院大学の所属学部の教員と現況などについて情報交換を行った。

その他	
-----	--

《評価指標データ》

★	
★	
★	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目3.0.1	学生の授業出席率は95%を超え、2011年度の免許・資格取得状況は、卒業生149名中、幼稚園教諭二種免許状98%、保育士資格87%、児童厚生二級指導員資格54%、認定ベビーシッター資格78%の実績となった。
★小項目3.0.2	キャリアセンター分室の職員が前年度卒業生の就職先を訪問したり、教員が実習先訪問の際に卒業生の近況を把握している。また、教員がその他、兵庫県や大阪などの幼稚園・保育所・施設などの各種団体と養成校との懇談会にも出席し、情報交換の機会をもっている。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目3.0.1	
★小項目3.0.2	卒業生に関する評価や情報の内容について、聴取する項目等を検討する。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目3.0.1	
★小項目3.0.2	就職先および編入先から聴取する卒業生に関する評価や情報の内容が統一されていない。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目3.0.1	
★小項目3.0.2	卒業生に関する評価や情報の内容について、聴取する項目等を検討する。
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	
--------------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○教育目標の達成度については、すでに大項目1でも大項目3でも記されている卒業生の資格取得状況や取得資格を活かした就職状況から評価すべき成果が上がっていることが十分にわかります。新たに制定された短期大学としてのディプロマポリシーについて個々の学生が自己の達成度を成績表以外で卒業時に知ることができるようなシステムが(一難しいことですが)考え出されるといいと思います。あるいは短期大学としての成果の検証が期待されます。履修カルテの作成とその活用が着実に進んでいることも評価できます。

○2009年度に設定した「目標」「1. 学生による授業評価アンケートの内容を再検討し、授業評価方法の改善を行う」が過去3年間C評価なのは、「→全授業科目の授業評価アンケートの実施、内容の検討状況」で授業アンケートが実施されていないのか、あるいは、内容の検討がされていないのかの記述が見られないので、明確にすることが必要です。推測すると、内容が検討されていないのでC評価になっていると思われますので、定期的に検討されることを望みます。

○2009年度に設定した「目標」、「2. 免許・資格を取得するための個別的な指導と支援を強化し、実績を維持する」項目で、C→B→Aと進捗評価していることは好ましいことです。殆どの学生が、免許・資格を取得する学校なので、開催回数も参加者数も予定通りであることが窺えます。

○小項目3.0.2「就職先および編入先から聴取する卒業生に関する評価や情報の内容が統一されていない」となっていますが、この項目は学内で決めることができる内容ですので、来年度に向け今年度中に統一するようにしたいものです。

【学内】

○資格取得及びそれに関連した専門就職の割合はともに十分に高く、評価できます。

○現状説明では、「授業評価アンケートは全科目にわたり実施し、評価結果を掲示している。各科目の評価結果については担当教員に配付している。」とのことですが、目標に対する進捗評価は「C」となっています。何故、「C」という評価になるのか気になるところです。

○「履修の手引きー開講科目教科内容ー」に各教科の評価方法を記載しているとのことですが、シラバスによる提示ではないのでしょうか。

○授業への出席率も高く、資格の取得割合も非常に高い。これらは教育の質の高さを物語るものとして評価できます。

○学生321名のうち退学5名、除籍1名とのことですが、それらの学生に対するケアは十分にされているのか報告シートからは読み取れません。

○進路決定状況も非常に高く、これもまた教育の質の高さを物語るものとして評価できます。

○就職先や実習先からの評価についての意見聴取、卒業生との交流など積極的に実施されていることを評価します。

○全ての項目に共通ですが、要素を参考にして点検・評価することで改善に繋がります。報告書においては全ての要素に触れる必要はありませんが、その観点を忘れないようにしてください。本記述ではそれぞれについて記述がなされています。

○現状の説明、小項目3.0.1において授業評価アンケートについての記述があります。これは昨年度の評価委員のコメントに対応されたものかと思いますが、これは授業評価アンケートにおける学生の授業満足度について聞いています。従って概要ではなくこの点の結果について記述が望まれます。

○各資格取得者数、各進路人数には割合も明記してください。

○昨年度の伸ばさせるための方策、改善方策にあげられた事柄について触れられていません。PDCAを確認するために記述が求められます。また、2年続けて成果が現れていませんから、より具体的な方策が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

・現状説明小項目3.0.1を次の文章と差し替える。

「教科の単位認定(評価)については、年度初めに学生に配布する「履修の手引きー開講科目教科内容ー」に各教科の評価方法を記載し、初回授業においても詳細を説明している。免許・資格を取得するという目的意識を持って勉学しているため、本学の学生の授業回数15回の出席率は、95%を超えている。ほとんどの学生が幼稚園教諭・保育士の免許・資格を取得し、さらに児童厚生員、認定ベビーシッター、社会福祉主事任用資格も取得している。(2011年度免許・資格取得状況 卒業生149名中、幼稚園教諭二種免許状146名 98%、保育士資格130名 87%、児童厚生二級指導員資格81名 54%、認定ベビーシッター資格116名 78%) 全学生321名のうち退学5名、除籍1名、復学は1名であった。単位取得状況および単位認定は教授会において、学期毎に成績報告会を開催し、確認している。関西学院大学教育学部および人間福祉学部との間に指定校推薦編入学制度を設けている。2011年度は「保育・教職実践演習(幼)」の授業の中で、履修カルテを作成し、学修を振り返る機会となった。授業評価アンケートは全科目にわたり実施し、評価結果を掲示している。各科目の評価結果については担当教員に配付している。授業評価アンケートの結果、学生の授業満足度が高いことがわかった。」

★

・改善すべき事項小項目3.01に次の文章を追加する。「授業評価アンケートは全科目実施しているが、評価項目の内容について最近検討していない」

・改善方策小項目3.0.1に次の文章を追加する。「授業評価アンケートの評価項目について検討する。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	4 学生支援
中項目	
小項目	4.0.1 入学に関する支援が行われていること
要素	短期大学案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像等が明示されているか。 募集要項には入学者選抜の方針、多様な選抜方法（推薦、一般、AO選抜等）が分かりやすく記載されているか。 広報もしくは入試事務の体制が整備され、受験生の問い合わせ等に対して適切に対応できているか。 多様な選抜が公正かつ正確に実施されているか。 入学手続き者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供できているか。 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは適切に行われているか。
小項目	4.0.2 学習支援が組織的に行われていること
要素	特に学習の動機づけに焦点をあわせた学習や科目選択のためのガイダンス等が適切に行われているか。 学生便覧等、学習支援のための印刷物が発行されているか。またそれらの印刷物は学生に理解しやすいものとなっているか。 基礎学力が不足する学生に対し、補習授業等の学習支援に対する組織的な取組みに努めているか。 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制が整備されているか。 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っているか。
小項目	4.0.3 学生生活支援体制が整備されていること
要素	生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）が整備されているか。 クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が活発に行われ支援体制も確立しているか。 休息空間、保健室、学生相談室、食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティへの配慮は充分か。 宿舎が必要な学生に適切な支援（学生寮、宿舎の斡旋等）は行われているか。また通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）は図られているか。 奨学金等、学生への経済的支援のための制度は用意されているか。 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制は整っているか。 学生個々の記録が作成されているか。またその記録は適切に保管されているか。 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めているか。
小項目	4.0.4 進路支援が行われていること
要素	就職支援のための教職員の組織が整備され適切に活動しているか。 就職支援室等が完備され、学生に必要な情報が提供できているか。 就職のための資格取得、就職試験対策などの支援はなされているか。 就職内定率（3/31現在）は十分な水準か。 その他、進学、留学に対する支援は充分になされているか。
小項目	4.0.5 多様な学生に対する特別な支援が行われていること
要素	留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制は整っているか。 社会人学生の学習を支援する体制は整っているか。 障害者の受入れが可能な施設を整備する等、障害者への支援体制は整っているか。 長期履修生を受入れる体制は整っているか。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレット、ホームページ等、広報の検討	→大学案内パンフレット、ホームページの作成に在学生や卒業生の意見、アイデアを取り入れる。	C	B	B		
2. 入学までの情報提供および入学前教育の充実	→入学予定者対象パンフレットの再検討、ピアノの実技能力向上のためのプログラムの検討	D	C	B		
3. アンケート調査などによる学生生活の現状把握	→在学生を対象として学生生活全般に対するアンケート調査の実施および課題の分析の進捗状況	D	D	B		
4. 進路選択時の情報提供を徹底し、アドバイザー制度の活用を推進する	→「進路希望調査カード」の再検討の進捗状況、アドバイザーへの相談および指導内容の分析	C	C	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目4.0.1	<p>4.0.1 入学に関する支援が行われていること</p> <p>(説明) 入試事務全般、入試広報業務、入学志願者への対応すべてを短期大学事務室が行っている。入学に関する支援としては、毎年、受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレットを作成、配布し、また事務室が窓口となって入学希望者の相談や学内見学への対応を行っている。またオープンキャンパスも開催している。入学手続き者に対しては、「入学手続きの手引き」「入学までのご案内」を送付し、オリエンテーションプログラム、奨学金等、授業や学生生活について事前に情報を提供している。また入学前教育(課題図書による感想文提出、ピアノの経験の少ない者に対するピアノレッスンの実施、漢字検定2級程度の学習を促し、入学後にテストを実施)を行っている。新入生の学修や学生生活を支援するために入学後にオリエンテーションウィークを設定している。主なプログラムとしては、「要覧」に基づき学生生活を始めるにあたっての注意事項の説明、履修指導および履修相談、図書館や学生支援相談室等施設の利用について説明を行っている。またこの期間にキャンパス案内や2年生による新入生歓迎会も実施している。</p>
小項目4.0.2	<p>4.0.2 学習支援が組織的に行われていること</p> <p>(説明) 新入生に対しては、入学時のオリエンテーションの中で「要覧」と「履修の手引き・開講科目教科内容」に基づき履修指導、履修相談などのプログラムを行っている。また、2年生に対しては前年度末に次年度に向けて履修指導を行っている。またアドバイザー制度を利用して個別相談にも対応している。学年毎の担当者会を定期的の実施し、情報の共有と連携を図っている。特に学生の実習を支援するために、個別に添削するなどきめこまやかな指導を行い、正規の授業を補っている。</p>
★ 小項目4.0.3	<p>4.0.3 学生生活支援体制が整備されていること</p> <p>学生生活支援については、学生主任の下に学生担当教員を2名配置し、検討すべき案件については定期的に開催される学長室会で協議している。学生の健康管理、奨学金、学生寮、食堂等キャンパスアメニティについては、キャンパス事務室と連携し、検討すべき案件についてはキャンパス連絡協議会で協議している。学生への経済的支援のための制度として、新規に入学前貸与奨学金、緊急時貸与奨学金、後援会奨学金、上谷潤子奨学金制度を制定した。メンタル面のケアとして学生相談室があり1名の職員がいる。また関西学院大学総合支援センターとも連携して対応している。健康面でのケアとしては保健館分室に1名の専任と2名のアルバイト職員が配属され、食生活相談会等を開催している。学生生活に関して学生の意見や要望を聴取するため、1月に「短大調査2011年(JJCSS2011)」を実施した。結果については現在分析中である。</p>
小項目4.0.4	<p>4.0.4 進路支援が行われていること</p> <p>(説明) 就職支援のための教職員の組織として、聖和キャンパス就職委員会の下に短期大学就職支援部会が置かれ、キャリアセンター分室と連携して支援を行っている。2年生のアドバイザー8名が部会委員を兼ね、個別の進路相談を担当し、また定期的に委員会を開催して短期大学全体の進路支援にあたっている。この会議にはキャリアセンター分室の職員が出席し情報を共有している。キャリアセンター分室は、「就職の手引き」を作成、配布し、就職支援プログラム(2年生対象13回、1年生対象5回)を開催している。また希望者には公務員試験対策講座も実施している。分室には求人票や個別園ファイル、情報誌等の資料、インターネットが整備され、またカウンターでも相談を受け付ける等、いつでも利用できるようになっている。今年度の就職については、就職を希望する者の100%の決定率となった。また進学については、関西学院大学の2学部への指定校推薦編入制度を設けるなどの支援を行っている。(2011年度進路状況(就職)幼稚園68名、保育所67名、保育所以外の児童福祉施設3名、公務員(保育士)1名、企業2名、進学4名、その他5名、未決定0名)</p>
小項目4.0.5	<p>4.0.5 多様な学生に対する特別な支援が行われていること</p> <p>(説明) 留学生、社会人等が在学していないため特別な支援は行われていない。障害者への支援体制としては、キャンパス全体でバリアフリー化を図った。長期履修生に対しては、アドバイザー等が連絡をとるなど、受け入れ体制は整っている。</p>
その他	

《評価指標データ》

★	
★	
★	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目4.0.1	
小項目4.0.2	学生の実習を支援するために正規の授業以外に個別対応や添削を行うなどきめ細やかな指導を行っている。
小項目4.0.3	経済的に困難な状況にある学生が年々増加傾向にあるため、新たに入学前貸与奨学金、緊急時貸与奨学金、後援会奨学金、上谷潤子奨学金制度を制定した。
★小項目4.0.4	アドバイザー8名が個別の進路相談を担当し、また定期的に委員会を開催して短期大学全体の進路支援にあっている。
小項目4.0.5	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目4.0.1	
小項目4.0.2	
小項目4.0.3	
★小項目4.0.4	
小項目4.0.5	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目4.0.1	ホームページの内容について在学生、卒業生、高校生等からの意見の聴取が十分にできていない。
小項目4.0.2	
★小項目4.0.3	学生の意見や要望を聴取するためアンケート調査を実施したが、現在、結果を分析中である。
小項目4.0.4	
小項目4.0.5	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目4.0.1	ホームページについて、オープンキャンパスなどで高校生の意見を聴取する。
小項目4.0.2	
★小項目4.0.3	教授会やFD検討会等で分析結果とその活用について話し合う。
小項目4.0.4	
小項目4.0.5	
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価 <評価専門委員会の評価>

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】
○長期履修生制度は、職業をもつ社会人などが修業年限を越えて履修し学位を取得する仕組みなので、そのためには特に資格取得や職業教育がしっかりと組み込まれている短期大学にとっては多くの問題が係わってくるようになると思います。そのための規程整備や聖和短期大学としてのその制度に対する指針をはっきりと定める必要があります。小項目4.0.5の「アドバイザー等が連絡をとるなど、受け入れ体制は整っている」という記述からはよくわからないところがあります。現在すでに当該の学生がいてアドバイザーが連絡をとっているということですか。それとも「アドバイザー等が連絡をとる」ことが受け入れ体制の主要なポイントですか。
○学生支援の評価が4項目ともBなのは残念です。学生に対しての援助内容、方法に問題があるのでしょうか。《現状の説明》を読みますと、懇切丁寧に記述されていることに敬意を表しますが、評価結果に結びついていないのは、文章だけで実施されていないのか、実施者間にバラツキがあるのでしょうか。問題点を見つけて、改善することを期待しています。
○前年度と同じ評価は、1.の「→大学案内パンフレット、ホームページの作成に在学生や卒業生の意見、アイディアを取り入れる。」でBですが、他の3項目はそれぞれ進捗している様子が窺えます。特に「3. アンケート調査などによる学生生活の現状把握→在学生を対象として学生生活全般に対するアンケート調査の実施および課題の分析の進捗状況」が、DからBに進捗したことは、努力の成果が見られます。

【学内】
○学生支援に関する諸目標について、進捗が見られ、よく取り組んでいます。
○入学に関する支援について、多様な選抜方法に関しての記述が見受けられません。その他、入学に関する支援については種々工夫して行っていることが読み取れますので評価できます。
○学習支援が組織的に行われていることについて、「特に学生の実習を支援するために、個別に添削するなどきめこまやかな指導を行い」と記されていますが、実習と添削というのがもう一つイメージとしてマッチしません。どのようなものを添削されているのでしょうか。
○「学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制が整備されているか」という観点からの記述がありません。特段のシステムは持ってないのでしょうか。
○学生生活支援体制について、クラブ活動等の課外活動に対する支援体制はいかがでしょうか。また西宮聖和キャンパスとして課外活動への取り組みはないのでしょうか。
○「1月に『短大調査2011年（JJCSS2011）』を実施した。結果については現在分析中である。」とのことですが、その結果を短期大学の諸活動の改善・改革へと結びつくことを期待します。
○就職決定率がずば抜けて良いことは、その状況に至ったシステム全体として高い評価ができます。
○全ての項目に共通ですが、要素を参考にして点検・評価することで改善に繋がります。報告書においては全ての要素に触れる必要はありませんが、その観点を忘れないようにしてください。本記述ではそれぞれについて記述がなされていますが、重要な点、例えば、案内に「建学の精神」「教育理念」「教育目的・教育目標」「望ましい学生像」が、要綱に「入学者選抜の方針、選抜方法」が明示、掲載されているか、という点について確認が必要です。
○入試において留意すべきは、募集要項を作成しているか、それが公表されているか、そしてそのとおりに実施されているか、という公平性、透明性の確保です。その点についての記述が望まれます。
○入学に関する支援は着実に実施されています。
○昨年度、伸ばさせるための方策に上がった奨学金諸制度が発足しました。PDCAを確認することができました。また、アンケート調査も同様です。しかしながら、留学生などの支援体制の言及がありませんので、PDCAを確認できるように記述をお願いします。
○学習支援、生活支援、進路支援はきめ細かくなされているようです。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

・現状説明小項目4.0.1の冒頭に次の文章を追加する。
「短期大学案内のパンフレットには、建学の精神・教育理念、教育目標、めざす人間像、めざす短期大学像が明示されている。募集要項にアドミッションポリシー（入学者受入方針）、選抜方法などを記載し、その内容はホームページにも公表している。」
・現状説明小項目4.0.2の文章を次のように差し替える。
「特に学生の実習を支援するために、個別に添削するなどきめこまやかな指導を行い、正規の授業を補っている。」→「特に学生の実習を支援するために、実習記録の書き方を個別に指導するなど正規の授業を補っている。」
★
・現状説明4.0.3に次の文章を追加する。
「クラブ活動等の課外活動については、聖和キャンパス公認団体（関西学院大学、聖和短期大学の学生が入部できる）として人形劇部わらべ、手話サークルたんぼぼ、バレーボール部などがあり、活動費の援助を受け活動している。短大学生は授業等が忙しく課外活動への参加が困難であるにもかかわらず活動する学生もいる。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	5 研究
中項目	
小項目	5.0.1 教員の研究活動が展開されていること
要素	教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は成果をあげているか。 教員各個人の研究活動の状況が公開されているか。 科学研究費補助金等の申請・採択、研究費の外部からの調達は実績があがっているか。 教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践及びその成果についての報告が奨励されているか。
小項目	5.0.2 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること
要素	教員の研究に係る経費の支出は充分か。また研究経費についての規程が整備されているか。 教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）は確保されているか。 教員の研究に係る機器、備品、図書等は充分か。 教員が研究を行うにふさわしい教員室、研究室または研修室が整備されているか。 教員には研究日（研修日）等、教員が研究を行うに十分な時間の確保に配慮がされているか。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学内研究会活動の推進	→ 聖和保育教育研究会等の開催状況	C	B	A		
2. 研究紀要の発行（年一回発行）	→ 研究紀要（聖和論集）の発行状況、発行回数	C	B	A		
3. 科研費等による研究の奨励	→ 科研費等による研究への応募および採択状況	C	C	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目5.0.1	5.0.1 教員の研究活動が展開されていること （説明）教員の研究活動については、日本保育学会（5名が発表）や全国保育士養成協議会研究大会、日本医療保育学会、日本教育心理学会、関西教育学会（各1名が発表）で研究発表を行った。各個人の研究活動状況については、毎年更新しホームページに公開している。外部補助金による研究については下記のとおりである。 ① 財団法人子ども未来財団平成23年度児童関連サービス調査研究等事業『保育所の災害時におけるマニュアルに関する調査研究』（主任研究員：千葉武夫、研究分担者：碓氷ゆかり 助成金額 3,000,000円） ② 平成23年度全国保育士養成協議会ブロック研究・研究費助成「保育所保育士の業務分析ータイムライン調査を中心にー」（共同研究者：前田佳代子 助成金額 150,000円） 文部科学省の科研費に関しては不採択であった。 聖和保育教育研究会において4名が発表、紀要『聖和論集39号』（2011年12月発行）に4名の教員が投稿した。
☆ 小項目5.0.2	5.0.2 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること （説明）研究経費については、規程に基づいて研究に係る機器、備品、図書の購入ができるようになっている。今年度は個人研究費に関するマニュアルをさらに整備し、研究内容の詳細を把握するために研究計画及び研究報告書の様式を改善した。本学教員が中心となって発足した聖和保育教育研究会は、現在会員数23名である。2011年度の事業として『聖和論集39号』を発行し、第2回研究発表会を開催し、4名が発表した。またキリスト教教育・保育研究センターにおける研究活動としては、研究会を4回開催し、研究員による発表・討議を行った。校務分掌として、研究推進担当教員1名をおいた。教員の研究の機会を確保するため、新たに留学規程および特別研究期間制度規程を制定した。

その他	
-----	--

《評価指標データ》

★	
★	
★	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目5.0.1	所属学会や全国保育士養成協議会で積極的に発表し、外部の研究費も獲得している。
★小項目5.0.2	新たに留学規程および特別研究期間規程を制定した。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目5.0.1	年度始めに「研究計画書」の提出を徹底し、研究を計画的に進めることをさらに奨励する。
★小項目5.0.2	短期大学の現状では難しい面もあるが、留学制度や特別研究期間制度を活用し、教員の研究の機会を確保する。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目5.0.1	
★小項目5.0.2	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目5.0.1	
★小項目5.0.2	
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	
--------------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○教員各個人の各種研究会での発表や外部補助金の獲得状況等からみて、聖和短期大学の研究活動が年々活性化していることがよく窺えます。その上、留学制度規程や特別研究期間制度の制定が行われ、研究活動の条件整備が進んでいることが大いに評価できます。教員の留学や特別研究期間制度が実際に活用され、その成果が、例えば短期大学の国際化や実践的教育等に具体的に反映されることが期待されます。○研究の分野では、意欲的に研究に取り組んでいる状況が窺えます。その結果が進捗評価のA並びにBに表れています。《現状の説明》小項目5.0.1①に書かれています、『保育所の災害時におけるマニュアルに関する調査研究』や、②「保育所保育士の業務分析－タイムライン調査を中心に－」等は、保育に直結した素晴らしい研究だと敬服します。保育を教える教員は、学内授業の他、幼稚園実習・保育園実習園への巡回指導など多忙だと思いますが、そのような日常保育の中から研究テーマを見つけ出し、日本の保育環境の向上、自分の授業の向上に益する研究を続けて、日本の子ども達のより良い環境作りに励んで欲しいと思います。

【学内】

○教員の研究活動に関して設定した目標もかなり達成されてきており、評価できます。
○科研費の申請状況は何件でしょうか。またその数は増加傾向にあるのでしょうか。さらに、研究推進・社会連携機構からのバックアップはあるのでしょうか。
○各個人の研究活動状況については、ホームページで分かり易く公表していることは評価できます。しかし、「業績・社会貢献等」欄の記載事項はいつのものか明示されていないのが多数見受けられます。
○研究室、研究を行うに十分な時間の確保については、進捗状況報告シートでは読み取れません。
○短期大学は教育活動に多くの時間を要しますが、その中で研究活動が着実に進められています。
○昨年度、一昨年度の評価者の指摘にもありますが、学会などでの発表数、論文発表数が具体的に経年で示されることが求められます。科研費や外部研究費などの採択状況も含め、一覧表を本シートに貼り付けられてはどうでしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

- ★ 現状説明小項目5.0.1に次の文章を追加する。「科研費の申請に関しては、関西学院大学研究推進・社会連携機構が実施する説明会に短大も参加している。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	6 社会的活動
中項目	
小項目	6.0.1 社会的活動への取組みが推進されていること
要素	社会的活動についての位置づけが明確にされているか。 社会人の受け入れに対して意欲的か。 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施しているか。 地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等と効果的な交流活動を行っているか。
小項目	6.0.2 学生の社会的活動を促進していること
要素	ボランティア活動等を通じて地域社会に貢献しているか。 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価しているか。
小項目	6.0.3 国際交流・協力への取組みの努力がみられること
要素	留学生の受け入れ及び留学生の派遣（長期・短期）に対して意欲的か。 海外教育機関等との密接な双方向的交流を継続しているか。 教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等は活発か。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 卒業生および保育者を対象とした研修会等の開催	→研修会等の実施状況	C	B	B		
2. 地域の子育て家庭を対象としたオープンセミナー聖和キャンパス講座(幼児教育大学)の開催(教育学部、聖和幼稚園との共催)	→オープンセミナー実施状況	C	B	B		
3. 「関西学院子どもセンター」における発達支援事業、子ども子育て支援事業、おもちゃとえほんのへや事業の充実	→「関西学院子どもセンター」事業の活動状況、学生ボランティアの活動状況	D	C	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目6.0.1	6.0.1 社会的活動への取組みが推進されていること (説明) 卒後教育および地域の保育者の研修の場として毎年開催している「聖和短期大学夏の研修会」を今年度も企画(テーマ: 保育における絵本を考える～子どもの成長と絵本～、講師: 正置友子)し、多くの参加申し込みがあったが、当日台風のためやむなく中止となった。関西学院大学オープンセミナー聖和キャンパス講座を教育学部と共催で開催した。テーマ「森のスケーターヤマネと不思議の田んぼから見える子育ての光」講師: 湊 秋作(関西学院教授)
★ 小項目6.0.2	6.0.2 学生の社会的活動を促進していること (説明) 聖和幼稚園の預かり保育(延べ118名)、同園で実施している病弱児保育(延べ20名)、関西学院子どもセンターの発達支援事業(2名)および子ども・子育て支援事業(11名)、「こうべ市民福祉振興教会主催の障害児ファミリーデイキャンプ(30名)、神戸市社会福祉協議会主催障害児の地域支援事業(運動遊び補助ボランティア)(延べ20名)など、多くの学生が自主的にボランティア活動に参加し貢献している。特に今年度は、東日本大震災関連のボランティアとして、一歩スマイルプロジェクト(延べ6名)、その他個人で被災地に行き参加した学生もいる。また、チャリティコンサートにコーラス部が参加した。学内の掲示板に、幼稚園、保育所、施設の行事などのボランティア募集の案内を掲示し、活動を促している。さらに、「ボランティア活動について」のしおりを作成し、全学生に配付し説明した。学生のボランティア活動の把握のために、ボランティア活動予定表と同報告書を作成した。校務分掌として、ボランティア支援担当を1名をおいた。
小項目6.0.3	6.0.3 国際交流・協力への取組みの努力がみられること (説明) 国際交流プログラムについては、本学が単独で主催する研修旅行を実施することは現段階では難しいため、国際交流担当教員が中心となって、業者に保育者養成校である本学にふさわしい教育研修旅行を立案してもらい、その実施時期などについて協議している。また、教員の留学に関する規程を制定した。
その他	

《評価指標データ》

★	
★	
★	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目6.0.1	
★ 小項目6.0.2	「ボランティア活動について」のしおりを作成し全学生に配付し説明した。学生のボランティア活動の把握のために、ボランティア活動予定表と同報告書も作成した。校務分掌として、ボランティア支援担当を1名をおいた。
小項目6.0.3	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策(伸長させるための方策)は次のとおりである。

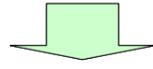
小項目6.0.1	
★ 小項目6.0.2	ボランティア活動予定表や報告書により学生のボランティアの活動状況を把握し、ボランティア支援担当教員を中心として支援体制の整備をさらに進める。
小項目6.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目6.0.1	
小項目6.0.2	
★小項目6.0.3	学生が参加できる海外研修旅行のプログラム提供ができていない。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目6.0.1	
小項目6.0.2	
★小項目6.0.3	2013年度海外研修旅行のプログラム提供に向けて、さらに準備を進める。また関西学院大学国際教育・交流センター（CIEC）との連携を図る。
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 <評価専門委員会の評価>

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○社会活動への取り組みに関して、従来から継続されてきた研修会や講座等が関西学院大学の協力を得ていっそう充実してきていることは評価できます。他方で、社会人に向けた一部授業の開放や地域の行政や住民等とのコラボレーションによる地域貢献の可能性も今後視野に入れられたらどうでしょうか。学生のボランティア活動の促進についても、「しおり」の作成と配布、さらにボランティア支援担当者をあらたに置いたことなどからも、聖和短期大学の社会的活動の促進の努力とその成果がよく認められます。それらは具体的に評価できることです。

○6 社会的活動の進捗状況は3つともBです。その内容は、「3. 「関西学院子どもセンター」における発達支援事業、子ども子育て支援事業、おもちゃとえほんのへや事業の充実→「関西学院子どもセンター」事業の活動状況、学生ボランティアの活動状況」ではCからBに進捗しています。「1. 卒業生および保育者を対象とした研修会等の開催→研修会等の実施状況」や「2. 地域の子育て家庭を対象としたオープンセミナー聖和キャンパス講座（幼児教育大学）の開催（教育学部、聖和幼稚園との共催）→オープンセミナー実施状況」の進捗状況は、前年度と同じBですが、近隣の子育て中の保護者は聖和短期大学の「研修会」や「オープンセミナー」に参加したいと希望している人も多数いると思いますから、是非、定期的に現状より少し多く開催されることを希望します。しかし、《現状の説明》を見ますと、「小項目6.0.1社会的活動への取組みが推進されていること。6.0.2 学生の社会的活動を促進していること。」などと実施されていますので、評価方法を見直し、Aにしても良いのではないかと思います。

【学内】

○社会的活動、ボランティア活動への取り組みは評価できます。学生の国際的視野を広めるために、国際交流などにさらに取り組みをされていくとよいと思います。

○「関西学院子どもセンター」における諸活動を「社会的活動への取組み」として記載できるのではと思います。

○学生の社会的活動の促進について、種々取り組みがあることは、聖和短期大学の理念に結びつく行動の表れと高い評価ができます。学院や関西学院大学との連携はいかがでしょうか。

○「国際交流・協力への取組み」については今後の課題と思われます。「目標」を設定して取り組むことも検討されてはいかがでしょうか。

○社会的活動の取り組みは、二つの取り組みだけなのでしょう。昨年度も同様でした。全ての項目に共通ですが、要素を参考にして点検・評価することで改善に繋がります。報告書においては全ての要素に触れる必要はありませんが、その観点を忘れないようにしてください。昨年度の改善すべき事項にも記述されています。

○昨年度の伸長させるための方策、改善すべき方策にあげられたしおり、ボランティア活動実施のための支援体制につき対応されています。

○昨年度と同様のコメントですが、数字だけが成果を図るものではありませんが、他のシートでも同様、数量的に示せるものは経年で表にして本シートに貼り付けられればどうでしょうか。例えば、公開講座の経年の参加者数などです。目標の指標でもあります。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

学内第三者評価<評価専門委員会の評価>のコメントについて再検討した結果、

・目標1の進捗評価を「B」から「A」に変更する。

・目標3の進捗評価を「B」から「A」に変更する。

・現状説明小項目6.0.1に次の文章を追加する。

「関西学院大学と聖和短期大学に両属する関西学院子どもセンターは、2010年の開設以来、地域の子ども・子育て支援事業「さぼさぼ」および発達支援事業「ういんぐ」を積極的に展開している。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	7 管理運営
中項目	
小項目	7.0.1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立していること
要素	学校法人の運営全般に理事長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 理事会は寄附行為の規定に基づいて開催され、学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか。 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか。 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催され、理事会の諮問機関として適切に運営されているか。 理事の構成に著しい偏りがないか。
小項目	7.0.2 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること
要素	短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 教授会は学則等の規定に基づいて開催され、短期大学の教育研究上の審議（諮問）機関として適切に運営されているか。 学長もしくは教授会のもとに教育上の委員会等が設置され、規程に基づいて適切に運営されているか。
小項目	7.0.3 事務組織が整備されていること
要素	短期大学の事務部門の規模は適当か。また事務職員の任用は適切に行われているか。 短期大学の事務部門は事務諸規程等を整備し、それらの規程に基づいて適切に業務を行っているか。 事務処理のための事務室、情報機器、施設・備品等は整備されているか。 決裁規程に従って決裁処理が適正に行われているか。また公印や重要書類・データの管理、防災対策、情報システムのセキュリティ対策は適切か。 事務職員及びその組織は学生から支持され信頼されているか。 事務部門にSD活動等を行う組織を設け、日常的に業務の見直しや事務処理の改善に努力しているか。具体的には事務職員の能力開発、事務能力の向上のため内部研修、外部への研修が活発に行われているか。
小項目	7.0.4 人事管理が適切に行われていること
要素	学校法人は教職員の就業に関する規程（就業規則、給与規程等）を整備し、それらを教職員に周知するとともにそれらの規程に基づいて適正に処理しているか。 学校法人（理事長、理事会）と教職員は、互いの立場を尊重しつつ協力する体制が整っているか。 教員と事務職員が互いの立場を尊重しつつ緊密に連携する雰囲気が醸成されているか。 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等は配慮されているか。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理および専決事項の策定。	→学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理、専決事項の検討及び策定状況	C	B	B		
2. 電算システム変更に伴う事務処理の効率化および事務体制の再整備。	→電算システム変更に伴う事務体制の再整備による業務軽減の結果、減少する職員の超過勤務時間	C	B	B		
3. 執行部と事務室の連携を促進、強化するための学長室会の定期的開催、教員と職員合同の研修会の開催。	→学長室会の開催状況、教員と職員合同の研修会の開催状況	C	B	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

<p>小項目 7.0.1</p> <p>☆</p>	<p>7.0.1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立していること</p> <p>①学校法人関西学院の理事長は、寄附行為第8条に「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する」と定めている。また、寄附行為第10条および第11条にもとづき、常務理事1名および理事長が推薦した常任理事3名を理事会が選任して、理事長の指示に従い業務を処理し理事長を補佐する体制としている。</p> <p>②学校法人関西学院の理事会は、寄附行為第13条に「理事会は、学校法人の業務を決し」と定めており、寄附行為施行細則第9条に定期理事会は毎月1回、臨時理事会は理事長が必要と認めた場合に開催することと定めている。2011年度は、定期理事会を11回、臨時理事会を3回、合計14回開催した。</p> <p>③学校法人関西学院の監事の職務は、寄附行為第17条に次の項目が定められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の業務を監査 ・法人の財産の状況を監査 ・監査報告書を作成し提出 ・不正行為または法令・寄附行為に違反する重大事実を発見したときに文部科学大臣に報告 ・理事会および評議員会に出席し意見を陳述 <p>監事は4名（非常勤）であり、名誉教授（監査論）、弁護士、公認会計士・税理士、元常任理事と各分野の専門家を選任している。また、監事は理事会に毎回出席し学長、高等部長等から各学校の学事その他について資料を配付され説明を聞くとともに、実地監査として学校に直接出向き学校長等から意見聴取等を行っている。さらに、監事会議に内部監査人が出席するとともに、内部監査人が年2回作成する内部監査報告書を監事および独立監査人に提供して、監事監査の支援・充実をはかっている。</p> <p>④学校法人関西学院の評議員会は、寄附行為施行細則第15条に毎年4回開催することと定められており、2011年度は計5回開催した。評議員会の役割として、寄附行為第22条に定めるとおり、学校の設廃、予算・事業計画、決算・事業実績、借入金、基本財産・積立金の処分、寄附行為変更、合併等について、理事会で協議する前に評議員会の同意を得ている。また、寄附行為第23条に定めるとおり、寄附金品募集、剰余金処分、寄附行為施行細則、その他重要事項について、理事会で協議する前に評議員会の意見を聴取している。</p> <p>なお、評議員（45名）は、寄附行為第19条に次のとおり定められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の役職者〔1～3号〕3名（院長、学長、中学部長） ・福音主義の教役者〔4号〕4名 ・在日宣教師〔5号〕4名 ・同窓会員〔6号〕10名 ・在学者父母・保護者〔7号〕2名 ・学識経験者〔8号〕2名 ・教職員選出〔9号〕15名 ・法人功労者・教育理解者〔10号〕5名 <p>⑤学校法人関西学院の理事（21名）の構成は、寄附行為第7条に次のとおり定められており、学内教職員11名および学外者10名とほぼ同数となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内役職者〔1～5号〕5名（院長、学長、高等部長、宗教総主事、事務局長） ・評議員会選出〔6号〕6名（内5名は評議員） ・学識経験者・同窓会員・教育理解者〔7号〕7名 ・理事長選任〔8号〕3名
<p>小項目 7.0.2</p>	<p>7.0.2 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること</p> <p>（説明）合併3年目に入り運営体制も安定化してきた。教授会については、定例教授会を月1回（第2水曜日）に開催し、聖和短期大学教授会規程に基づき適切に協議・審議を行っている。2011年度は臨時教授会を含めて18回開催した。学長室会は、学長、学生主任、教務主任、短期大学事務室課長および主任が出席して毎週水曜日に開催し、各業務内容やスケジュール等の確認、各種案件について協議を行っている。2011年度は41回開催し、これにより教授会と短期大学事務室の連携が図られている。また全教員が校務分掌をそれぞれ担当している。</p>
<p>小項目 7.0.3</p>	<p>7.0.3 事務組織が整備されていること</p> <p>（説明）西宮聖和キャンパス事務室に短期大学担当が配属され、聖和短期大学に関する事務全般を行なっている。また、短期大学担当だけで対応が難しい行事（オープンキャンパス、入学試験や入学式、卒業式等）については、西宮聖和キャンパス事務室キャンパス担当の支援を受けて実施している。</p>
<p>小項目 7.0.4</p>	<p>7.0.4 人事管理が適切に行われていること</p> <p>（説明）教職員の人事管理については、関西学院総務部人事課が行なっている。職員の人事管理は西宮聖和キャンパス事務室長の下で短期大学担当課長が行なっている。職員人事評価については、職員人事考課制度の下で評価が行なわれている。</p>
<p>その他</p>	

《評価指標データ》

☆	
☆	
☆	

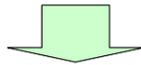
◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目 7.0.1	
小項目 7.0.2	学長室会の定期的開催により、学長、学生主任、教務主任、短期大学事務室が各業務の内容、スケジュールを共有し、連携が順調に進んでいる。
★小項目 7.0.3	
小項目 7.0.4	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》**伸長させるための方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目 7.0.1	
小項目 7.0.2	学長と短期大学事務室課長、学生主任、教務主任と各担当の事務室主任の定期的ミーティングの促進。
★小項目 7.0.3	
小項目 7.0.4	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目 7.0.1	
小項目 7.0.2	
★小項目 7.0.3	
小項目 7.0.4	今年度は教員・職員合同の研修の機会が少なかった。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目 7.0.1	
小項目 7.0.2	
★小項目 7.0.3	
小項目 7.0.4	合同研修会の開催と参加を促進し、教育目標や理念の共有と短大運営における連携を深める。
その他	

◎**自由記述**

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 <評価専門委員会の評価>

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○小項目7.0.4のうちの一つの要素「教員と職員との緊密な連携」という目標に対する方策である合同研修会については、まだ定期的開催に至っていないようなので「概ね適切に実行している」ことにはならないと思います。短期大学の管理運営にとって教員と職員の合同研修会の意義はとて大きいと考えますので、今後の「合同研修会の開催と参加の促進」に期待します。

【学内】

- 合併3年目に入り管理運営は安定化してきているようで、評価できます。
- 「理事会等の学校法人の管理運営体制」については、適切に記されています。
- 「教授会等の短期大学の運営体制」については、適切に運営されていると評価します。教授会の教員の出席率はいかがでしょうか。
- 「7.0.3 事務組織が整備されていること」について、小項目の要素を参考にして点検・評価することで改善に繋がります。報告書においては全ての要素に触れる必要はありませんが、その観点を忘れないようにしてください。
- 人事管理の適切性について、「職員」からの切り口からの記述が多いですが、「教員」という切り口からの記載はできないものでしょうか。
- 昨年度、学内第三者のコメントに対応されて追加記述をされましたが、本年度それが反映されていません。
- 昨年度の改善すべき事項であげられた、事務組織の検証であるアンケート実施はどうなったのでしょうか。記述が全くありません。これを記述することでPDCAが確認できます。
- 昨年度のコメントが反映されていません。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

・現状説明小項目7.0.3に次の文章を追加する。

「短期大学事務室に5人の専任職員が配置されている。その他聖和キャンパス事務室所属の職員として、保健館分室、キャリアセンター分室、実習支援室、短期大学図書館の職員が大学教育学部と短期大学両方の業務を行っている。また法人が定める事務諸規程に基づいて適切に業務を行っている。」

★

・現状説明7.0.4に次の文章を追加する。

「人事管理については、関西学院就業規則、給与規程、聖和短期大学専任教員職務規程、兼業規程等に基づき適切に行われている。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は 8 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	8 財務
中項目	
小項目	8.0.1 財務運営が適切に行われていること
要素	学校法人及び短期大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定しているか。また、決定した事業計画と予算は速やかに関係部門に伝達しているか。
	年度予算は、適正に執行されているか。日常的な出納業務は円滑に実施され、所管担当責任者を経て理事長に報告されているか。
	決算終了後の計算書類、財産目録等は、法人の経営状況及び財政状態を適正に表示しているか。これに係る監事の機能は有効に働いているか。また、公認会計士の監査意見への対応は適切か。
	資産及び資金（有価証券を含む）の管理と運用については、資産等の管理台帳、資金出納簿などに適切な会計処理に基づいて記録され、安全かつ適正に管理されているか。また、寄付金の募集及び学校債の発行は適正か。
	月次試算表が毎月適時に作成され、財務担当責任者を経て理事長に報告されているか。
小項目	8.0.2 財務体質が健全であること
要素	学校法人及び短期大学の経営の状況（資金収支及び消費収支）は、評価を受ける過去3ヶ年にわたり均衡しているか。消費収支計算における収入超過または支出超過の状況について、その理由を把握しているか。
	学校法人の財政状態（貸借対照表）は健全に推移しているか。短期大学の経営状況が法人の財政にどのような影響を与えているかを把握しているか。
	短期大学の永続を可能とする学校法人の資金は、健全に維持されているか。余裕資金については、将来計画を見込んで目的別に引当資産化しているか。単に現預金の上に留保資金が集中していないか。
	短期大学の教育研究経費は、評価を受ける過去3ヶ年の平均が帰属収入の20%程度を超えているか。短期大学に係る教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての配分は適切か。
小項目	8.0.3 短期大学に必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われていること
要素	固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等の財務諸規程を含め整備し、施設設備、物品（消耗品、貯蔵品等）を適切に管理しているか。
	施設設備の維持管理について、火災等災害対策、防犯対策、避難対策に対処した整備及び定期的な点検訓練がなされているか。コンピュータシステムのセキュリティ対策は適切か。
	施設設備の維持管理において、省エネ・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされているか。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 法人全体として強固な財政基盤を確保するため、以下の目標を設定する。 ①帰属収支差額比率：10.5% ②純人件費比率：52.3%（過去5年間平均） ③総人件費比率：56.4%（過去5年間平均） ④教育研究経費比率：33%程度を維持 ⑤寄付金比率：3.0%（2007年度全国平均）を目指す	→①帰属収支差額比率、②純人件費比率、③総人件費比率、④教育研究経費比率、⑤寄付金比率	C	C	C		
2. 法人としての新基本構想のビジョン実現および資金の有効活用の視点から内部監査を実施し、業務および会計処理の改善を行う。	→内部監査の結果、指摘・提言に対する改善状況	A	A	A		
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」					
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目8.0.1	<p>8.0.1 財務運営が適切に行われていること</p> <p>(説明)</p> <p>本学では、法人内の学校ごとのセグメント計算書を毎年の予算・決算時に作成し、収支状況を適宜把握するよう努めている。各部門の収支については、独立採算制を採っているわけではないので、支出超過部門についても、原則的にはオール関西学院で支えあう体制となっている。しかし、昨今では保証人をはじめとする学院関係者への説明責任を果たす上で、法人として、学校ごとの収支改善に向けた方策を考えるとともに、当該部門に対しても収支改善に向けた取り組みをおこなうよう勧告している。</p> <p>1. 予算編成はスケジュールに沿って実施している。現行の予算制度は、各部にあらかじめ予算ガイド額を提示することにより、予算編成時に事業のスクラップ&ビルドを促す制度となっている。そして、執行にあたっての指針として、予算通知時に「予算の適正な執行にあたっての注意」を示し、執行ルールの明確化・適正化を図っている。</p> <p>2. 事業評価結果に基づく予算事前折衝の導入については、内部監査室にて一部の事業計画を対象に試行的に事業評価・検証を実施しているが、事業評価制度と予算制度をリンクさせるには、毎年度、すべて部局が評価調書を提出し、その検証を行う必要があるため、現行の内部監査室人員体制では実現不可能である。また、試行的に「予算の事前折衝制度」を主要業務に限定して実施するとした場合でも、予算責任者と理事者側の代表者（常務理事、財務担当常任理事、他）の間で事前折衝を行うことについて、法人内で理解が得られていない状況にある。</p> <p>しかし、学院が持続的に発展するための強固な財務基盤を確立するためには、これまで以上に経費削減や既存事業の見直し等に取り組む、新規事業の財源を捻出する原則を徹底していかねばならない。教職員の学校経営や財政状況に関する理解を促進し、事業評価結果を次年度予算に反映させる仕組みづくりの必要性を提示し続けることで制度導入を目指す。</p> <p>3. 2011年度の内部監査については、5部局を対象とした部局ごとの業務・会計監査、11事業計画を対象に事業の評価・検証および科学研究費補助金・受託研究費事業の監査を実施した。各部局からは図書管理、規程等の整備、博物館開設準備状況、学外施設との連携協力状況、大学院入学定員確保、補助金等外部資金獲得、予算執行の適正化等について改善に向けての回答があった。</p> <p>4. 本学では1969年以降、毎年、予算及び決算について財務情報の公開を行っている。ホームページ上での公開もいち早く実施している。特に、決算結果については、事業報告書の中で「事業の概要および財務の概要」として前年度比較を交えて詳</p>
★ 小項目8.0.2	<p>8.0.2 財務体質が健全であること</p> <p>(説明)</p> <p>本学では、幼稚園から大学・大学院、さらには専門職大学院までの学校を擁し、学校法人全体としての資金管理を法人の財務部でおこない、各学校は収入にもとづく独立採算制ではなく、毎年、決定された予算により運営する方式を取っている。</p> <p>1. 「新基本構想」実現のため、2009年度～2013年度の5年間にわたる施策が「新中期計画」として策定され、順次、実行に移されている。新中期計画等の施設設備投資額を10～12億円規模と想定し、2018年度までの財政見通しを立案している。</p> <p>2. 消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率をもとに現状把握に努め、比率の適正化に向け、全学的な課題について財務改革・業務改革本部で検討を行なうとともに、各部に協力を働きかけている。財務・業務改革本部において、強固な財務基盤の確立のため、実現可能性のある健全な財務評価指標（目標値）を、2010年度に再設定した。</p> <p>2011年度の帰属収支差額比率は、12.9%（単年度の特種要因である退職給与引当金特別繰入額を除いた数値）となり、前年度の11.5%（学校法人千里国際学園との合併に伴い承継した合併受入差額を除いた数値）に引き続き目標を上回った。</p> <p>寄付金比率については2.5%と目標に届いていない。2011年度は震災の関係から募金活動を自粛していたことも影響しているが、今後は2014年度までの創立125周年記念事業の実施にあわせて、より一層、募金活動を促進することによって収入増を目指す。</p> <p>支出面では、退職給与引当金特別繰入額を除いた2011年度の純人件費比率は52.3%、総人件費比率は58.2%と目標内におさまっている。教育研究経費比率については新中期計画での経費増を見込んで、2009年度以降経費削減に取り組んできたが、2011年度は新中期計画での経費が想定を下回っていたため、同比率は30.9%となり、目標の33%程度を下回っているが、今後、新中期計画のすべての施策が実施されると改善すると見込んでいる。</p> <p>また、ここ10年間、自己資金構成比率は80%以上を維持しており、安定した財政状態を示している。</p>
小項目8.0.3	<p>8.0.3 短期大学に必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われていること</p> <p>必要設備については学部との共用もあり充実されている。また、管理方法については、担当部署と連携し備品登録、棚卸し等規程に定められた管理を行っている。</p>
その他	

《評価指標データ》

★	
★	
★	

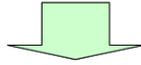
◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

★	小項目8.0.1	
	小項目8.0.2	
	小項目8.0.3	
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》**伸長させるための方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

★	小項目8.0.1	
	小項目8.0.2	
	小項目8.0.3	
	その他	

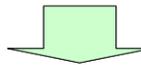
◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

★	小項目8.0.1	
	小項目8.0.2	
	小項目8.0.3	
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

★	小項目8.0.1	
	小項目8.0.2	
	小項目8.0.3	
	その他	

◎**自由記述**

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○短期大学の必要設備は、本来「専用」として充実していることが望ましいことです。ただ、聖和短期大学の場合、学部との共用施設も多くあることによって施設設備全体が充実していることも確かであり、それは評価できることです。

【学内】

○短期大学のセグメントについての説明があるとよいと思います。

○各小項目の要素について点検・評価が必要な項目がないか再確認してください。

○総人件費比率は58.2%とのことですが、それなら目標内に収まっていないのではないのでしょうか。

○「必要設備については学部との共用もあり充実されている。」との評価ですが、共用による問題はないのでしょうか。

○昨年度の効果が上がっている事項に記述した、効果的な監査について、本年度記載がありません。これを記述することでPDCAが回っているか確認できます。

○記述は丁寧ですが、短期大学基準協会の要素に応えるような記述を考える必要があります。

○事業評価結果に基づく予算事前折衝については、改善すべき事項に記述されても良い内容ではないのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

☆ なし

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	9 改革・改善
中項目	
小項目	9.0.1 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること
要素	自己点検・評価のための規程及び組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行っているか。 定期的に自己点検・評価報告書が公表されているか。
小項目	9.0.2 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること
要素	自己点検・評価活動には出来るだけ多くの教職員が関与するよう配慮されているか。 自己点検・評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。
小項目	9.0.3 相互評価（独自に行う外部評価を含む。以下、評価の観点も同じ）への取組みに努力していること
要素	前の第三者評価から今回までの間に相互評価を実施したか。 相互評価のための規程及び組織を整備し、定期的に相互評価を行っているか。 相互評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 毎年の自己点検・評価の実施	→目標、指標の設定。毎年の自己点検・評価報告書の作成。2013年度の認証評価報告書作成。	C	B	B	/	/
2. 専門領域を同じくする松山東雲短期大学との相互評価の継続と結果の活用	→定期的な検討会の実施状況。検討の進捗状況。報告書作成。	C	B	B	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目9.0.1	9.0.1 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること (説明) 関西学院の自己点検・評価制度の下、今年度も自己点検・評価を実施した。短期大学自己評価委員会を中心に、「2011年度聖和短期大学自己点検・評価実施要領」に基づいて進捗状況報告シートを作成し、評価専門委員会による評価(学内第三者評価)を受け、評価結果をホームページ上で公表した。
小項目9.0.2	9.0.2 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること (説明) 年度末に全教員より各自が担当している校務分掌について報告書を提出してもらい、それらを参考に短期大学自己評価委員会を中心に自己点検・評価進捗状況報告シート(案)を作成し、内容について逐次、教授会で検討している。
小項目9.0.3	9.0.3 相互評価(独自に行う外部評価を含む。以下、評価の観点も同じ)への取組みに努力していること (説明) 2008年度より開始した松山東雲短期大学との大学間相互評価については、継続について協議し、相互評価を今後も続けていくことを確認し協定を結び、今後のスケジュールや評価内容、評価方法についても協議した。
その他	

《評価指標データ》

☆	
☆	
☆	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目9.0.1	自己点検・評価が毎年行われるようになったことにより、短期大学の運営すべてにおいて自覚的に取り組む姿勢ができつつある。
小項目9.0.2	
★ 小項目9.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目9.0.1	毎年の自己点検評価を継続する。
小項目9.0.2	
★ 小項目9.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目9.0.1	短期大学基準協会の評価基準が改定されたため、新しい評価基準の内容について検討が必要となる。
★ 小項目9.0.2	年度末に教員が担当している校務分掌について報告書を提出することにより、それぞれの担当分野における点検・評価をしているが、評価結果の次年度以降の活用について全体的な話し合いができていない。
小項目9.0.3	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目9.0.1	まず、自己評価委員会と点検評価担当などで、新しい評価基準の内容について調べる。
★ 小項目9.0.2	全教職員が自己点検・評価に関与し、その成果を活用できるシステムを早急に構築する。
小項目9.0.3	
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○評価に当たっては、「2012年度聖和短期大学自己点検・評価実施要領」の中に、1. Aランク数値目標・Bランク数値目標を明記し、その数値目標が達成されたかによって評価をする方法を取り入れたら、目標が理解しやすく、科学的に公平な評価が可能になると思います。

【学内】

○自己点検・評価活動の実施体制は確立していると評価できます。

○「年度末に教員が担当している校務分掌について報告書を提出することにより、それぞれの担当分野における点検・評価をしているが、評価結果の次年度以降の活用について全体的な話し合いができていない。」と改善事項に掲げ、「全教職員が自己点検・評価に関与し、その成果を活用できるシステムを早急に構築する。」と改善方策に示されています。その実施に期待いたします。

○松山東雲短期大学との大学間相互評価について、報告書の作成が望まれます。

○昨年度のコメント、それを受けての追加記述が本年度反映されていません。

○関西学院の制度の下3年目の自己点検・評価となりました。2014年度の機関別認証評価を睨みながら、どのような自己点検・評価が実質的で且つ効率的か、継続して検討する必要があります。特に、記述されているように、評価結果の次年度以降の活用は重要なところです。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

・現状説明小項目9.0.3を次の文章と差し替える。

★ 「2008年度より開始した松山東雲短期大学との大学間相互評価については、2011年3月に「松山東雲短期大学 聖和短期大学相互評価結果報告書」を作成した。その後相互評価の継続を確認し、2012年3月に新たに協定を結び、今後のスケジュールや評価内容、評価方法について協議した。なお、基礎的なデータについては、2011年9月に公表した。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	10 キリスト教主義教育
中項目	
小項目	10.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。
要素	
小項目	10.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等によるキリスト教主義教育の実践	→オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等の実施状況。	C	B	A		
2. 教職員に対する研修会の開催。学校礼拝、諸行事などへの積極的な参加。	→研修会の実施状況、学校礼拝、諸行事への参加状況。	D	C	B		
				☆		

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目 10.0.1	10.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。 (説明) 学校礼拝は、原則として授業日は毎日行われ、木曜日は50分間のロングチャペルを実施し、特に月曜日の礼拝は各ゼミ・アドバイザークラスが担当している。本学と関西学院大学教育学部が曜日ごとに礼拝を担当しキャンパス全体としての礼拝運営を行い、短大、大学の学生が共に礼拝する場となっている。キリスト教教育・保育研究センターは、短大、神学部、教育学部、聖和幼稚園の教員等を研究員として委嘱し、今年度は研究会を4回実施した。また「子どもに『死』を語る」をテーマに公開講座を開催し、近隣の幼稚園・保育所、教会関係者等60名が参加した。常設展示「<Holy Union>合併の歴史 蔵書から垣間見るStoryとともに」の他、長年交流のある国立ハンセン病療養所「大島青松園」の脇林明氏の写真展「大島の季節を見つめて」を開催した。
★ 小項目 10.0.2	10.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 (説明) 「キリスト教主義教育をとおして人格の完成をめざし、修得した知識や実践力を活かして隣人、社会、世界に奉仕する力を育てる」(カリキュラムポリシー)に基づき、キリスト教関係科目を必修科目として各学年に開講する教育課程を編成している。毎日行われる学校礼拝、クリスマス等キリスト教関係行事への参加が奨励され、またキリスト教保育を展開している聖和幼稚園での実習や行事等への参加をとおして、さらにキリスト教への理解が深められている。また今年度の礼拝については、特に東日本大震災に関連する内容が多く取り上げられ、被災地の現状、ボランティア活動の報告、献金や募金への呼びかけ等が行われた。礼拝出席者の年間平均人数は、ロングチャペルが166名、ショートチャペルが36名となっている。教職員への礼拝や行事への参加呼びかけについては、定例教授会において宗教主事より礼拝スケジュール等が案内され報告されている。
その他	

《評価指標データ》

★	
★	
★	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

★	小項目 10.0.1	学校礼拝、キリスト教関係行事等への参加については、宗教主事、キリスト教関係科目担当者、アドバイザー等が連携し、礼拝出席を奨励する体制をとっている。月曜日の礼拝は、短大の各ゼミ・アドバイザークラスが担当するなど定着してきた。
	小項目 10.0.2	実習報告やボランティア報告など、学校礼拝が学生や卒業生の体験を共有する場ともなっており、またクリスマス礼拝は学生、教職員が音楽などで参与する形や内容で行われるため、ほとんどの学生や教職員が参加する。
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

★	小項目 10.0.1	宗教主事、アドバイザー、キリスト教関係科目担当者間の連絡を密に行い、連携をさらに進める。
	小項目 10.0.2	今後も学生や教職員が参与し、また参加しやすい礼拝の内容、方法をさらに検討していく。
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

★	小項目 10.0.1	
	小項目 10.0.2	
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

★	小項目 10.0.1	
	小項目 10.0.2	
	その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○「10 キリスト教主義教育 10.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。1. オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等によるキリスト教主義教育の実践→オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等の実施状況。」の進捗評価がC→B→A になったことは、ミッションスクールとしては素晴らしいこととあります。研究会を4回実施したり、ロングチャペルでは各ゼミ・アドバイザークラスが担当したり、教育学部と担当を決めたりして運営している成果だと思われます。ミッションスクールとしては当然のこのように思われますが、その成果によりAと評価したのだと思われます。

○「2. 教職員に対する研修会の開催。学校礼拝、諸行事などへの積極的な参加。→研修会の実施状況、学校礼拝、諸行事への参加状況。」はD→C→B と向上はしていますが、教職員への働きかけは、あと一步の努力が必要です。

【学内】

○学校礼拝を、原則として授業日は毎日行い、木曜日は50分間のロングチャペル、月曜日の礼拝は各ゼミ・アドバイザークラスが担当するなど、多様な形態で実施していることを評価します。さらに、関西学院大学教育学部とでキャンパス全体としての礼拝運営を行っていることを評価します。このような実施形態を取るには組織的な工夫がなされていると推量しますが、その事を示しても良いのではと思われます。

○効果が上がっている事項として、「実習報告やボランティア報告など、学校礼拝が学生や卒業生の体験を共有する場ともなっており」と記されています。学校礼拝の場で、実習報告がなされているのでしょうか。実習報告は、実習のカリキュラムの中で行うものではないのでしょうか。

○昨年度、改善方策にあげられたことを記述することでPDCAを確認することができます。本年度の改善方策に記述がないということは改善がなされたのでしょうか。

○目標1の進捗が「A」となりました。効果が上がっている事項には記述されていますが、「A」になった理由をもう少し説明願えればと思います。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

・効果が上がっている事項10.0.1を次の文章と差し替える。

★ 「学校礼拝は、学生の実習やボランティア活動などの体験を共有する場や卒業生の活躍を知る場ともなっている。また、クリスマス礼拝は学生、教職員が音楽などで参与する形や内容で行われるため、ほとんどの学生や教職員が参加する。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	11 人権教育・人権問題
中項目	
小項目	11.0.1 人権教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容 (KG2)人権意識の涵養とその現状
小項目	11.0.2 人権問題への対応を適切に行っているか。
要素	(KG1)ハラスメント防止のための措置の適切性 (KG2)セクシャル・ハラスメント防止への対応 (KG3)アカデミック・ハラスメント防止への対応 (KG4)その他ハラスメント防止への対応 (KG5)人権侵害の防止とその対応

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 人権に関するオリエンテーションおよびパンフレットの充実	→オリエンテーションの実施状況およびパンフレットの検討の進捗状況。	C	B	B		
2. 保育者としての人権意識を涵養するための教育の検討	→人権関連科目の履修状況、授業内容の検討状況。	C	C	B		
3. ハラスメントに関する相談ルートの整備および周知徹底。	→ハラスメントに関する相談ルートの整備状況および学生への周知。	C	B	A		
4. 教職員の人権関連研修会への積極的参加	→研修会への参加状況	C	C	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目 11.0.1	11.0.1 人権教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 (説明) 入学時に配布する「要覧」に人権に関する内容を記載し、新入生オリエンテーション、アドバイザーアワー(学生生活全般について相談・助言し、学生相互の話し合いや様々な形での交わりの時)や「子どもと人権」の授業や学校礼拝をとおして学生の人権意識の啓発とあらゆる人権侵害をゆるさない保育者になることをめざして取り組んでいる。特に保育者養成に関する科目には人権に係る内容を含んだものが多く、各教科内容をとおして具体的に教授している。また、入学前教育の一つとして「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」をテキストに用い活用している。10月には教員を対象に「関西学院大学の人権教育」(舟木譲関西学院大学人権研究室室長)の研修会を開催し、関西学院大学の人権教育の取組みと歴史を聞くことができた。外部研修会については、人権担当者がメールなどで教授会メンバーに逐次案内をしている。
☆ 小項目 11.0.2	11.0.2 人権問題への対応を適切に行っているか。 (説明) ハラスメントに関する相談ルートを作成し、2名の人権相談担当者が対応している。学生に対しては、「要覧」にキャンパス・ハラスメントの防止と被害を受けた場合の相談ルート等を記載し、新入生オリエンテーションにおいて説明を行っている。相談ルートについては常時掲示もしている。また教員に対しては、教授会で説明し、周知を図っている。個人情報の取り扱いについての研修会(専任教員対象、非常勤講師対象)を開催した。
その他	

《評価指標データ》

★

★

★

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

小項目 11.0.1	関西学院大学人権研究室室長を講師に教員を対象とした研修会を開催し、関西学院大学の人権教育の取組みと歴史を学ぶ機会をもった。
★ 小項目 11.0.2	「要覧」にキャンパス・ハラスメントの防止と被害を受けた場合の相談ルート等を記載し、説明を行った。相談ルートは常時掲示もしている。また教員に対して、周知徹底を図った。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

小項目 11.0.1	人権担当教員が中心となって関西学院大学人権研究室と連携し、今後も定期的に研修会を開催する。
★ 小項目 11.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

小項目 11.0.1	
★ 小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

小項目 11.0.1	
★ 小項目 11.0.2	
その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○学生のみならず教職員に対しても幅広く人権教育が実行されていることが窺えます。特に、保育者養成に関する科目を通して人権に係わる問題が教授されていることは評価できます。教職員に向けた人権問題に関する研修会も何度か催されているようですが、それへの参加者の割合はいかがですか。

○「3. ハラスメントに関する相談ルートの整備および周知徹底。3. ハラスメントに関する相談ルートの整備および周知徹底。」は最も緊急を要する具体的な項目ですから、C→B→Aとなったことは好ましいと思います。過去3年間の整備と周知徹底、相談ルートができたことでAと評価したのだと思われます。他の項目は、緊急性を必要としないと判断して、B評価なのではないでしょうか。具体的なハラスメントが起こらないようにする項目ですから、早急に整備することが望まれます。

【学内】

○設定した目標への進捗が進んでおり、評価できます。

○人権教育について、新入生オリエンテーションやアドバイザーアワー、「子どもと人権」といった授業、学校礼拝をとおして人権意識の啓発に取り組んでいることは評価できます。

○キャンパス・ハラスメントの防止に関し、「要覧」に相談ルート等を記載し、説明を行ったことは評価できます。さらにホームページ等に記載する等の工夫が必要ではと思われまます。また、関西学院大学教育学部とキャンパスを共にしますので、組織をまたがった啓発活動や組織作りが必要ではと思われまます。

○目標3の進捗評価が「A」になりました。現状の説明をされていますが、昨年度と大きく変わらない印象です。何故「A」になったのかももう少し説明が欲しいところです。

○昨年度、研修会への教職員の参加が少ないと、改善すべき事項に記述がありました。本年度はどうだったのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

学内第三者評価＜評価専門委員会の評価＞のコメントについて再検討した結果、

・目標3の進捗評価を「A」から「B」に変更する。

・現状説明小項目11.0.1の文章を次のように修正する

★ 「入学時に配布する（中略）…（講師：舟木譲関西学院大学人権研究室室長）の研修会を開催し（全教員参加）、関西学院大学の人権教育の取組みと歴史を聞くことができた。（後略）…」

・改善すべき事項小項目11.0.2に次の文章を追加する。

「ハラスメントに関する相談ルートのおよび周知については整備できたが、ハラスメント防止の啓発については、十分ではない。」

・改善方策小項目11.0.2「ホームページに公表し、啓発に努める。」

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	12 ボランティア活動・教育
中項目	
小項目	12.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容
	(KG2)ボランティア活動実践への対応
	(KG3)ボランティア活動に関する課題の把握
	(KG4)ボランティア教育の現状

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ボランティア活動の意義についてのしおりの作成と活用	→しおりの内容の検討と作成。配付。	D	C	B		
2. ボランティア活動実施のための情報提供、支援体制の整備	→学生のボランティア活動への参加状況、情報提供の件数。	D	C	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

☆	小項目 12.0.1	12.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 (説明) 入学式、卒業式、オリエンテーション、学校礼拝等において、関西学院のミッションステートメント、建学の精神、教育理念等をおしてキリスト教の奉仕の精神について伝えており、新たに「ボランティアのしおり」を作成し、ボランティアの意義や諸注意などについても説明をした。学生たちは、忙しい授業スケジュールの合間をぬって、ボランティア活動をしている。聖和幼稚園の預かり保育(延べ118名)、同園で実施している病弱児保育(延べ20名)、関西学院子どもセンターの発達支援事業(2名)および子ども・子育て支援事業(11名)、「こうべ市民福祉振興教会主催の障害児ファミリーデイキャンプ(30名)、神戸市社会福祉協議会主催障害児の地域支援事業(運動遊び補助ボランティア)(延べ20名)など、多くの学生が自主的にボランティア活動に参加し貢献している。特に今年度は、東日本大震災関連のボランティアとして、一歩スマイルプロジェクト(延べ6名)、その他個人で被災地に行き参加した学生もいる。また、チャリティコンサートにコーラス部が参加した。学内の掲示板に、幼稚園、保育所、施設の行事などのボランティア募集の案内を掲示し、活動を促している。学生のボランティア活動の把握のために、ボランティア活動予定表と同報告書を作成した。校務分掌として、ボランティア支援担当教員を1名置いた。
	その他	

《評価指標データ》

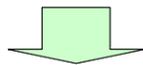
☆	
☆	
☆	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

★	小項目 12.0.1	「ボランティア活動について」のしおりを作成し、全学生に配付し説明した。学生のボランティア活動の把握のために、ボランティア活動予定表と同報告書を作成した。校務分掌として、ボランティア支援担当を1名をおいた。
	その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

★	小項目 12.0.1	ボランティア活動予定表や報告書を活用し、ボランティア支援担当を中心として支援体制をさらに整備する。
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

★	小項目 12.0.1	
	その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

★	小項目 12.0.1	
	その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○12 ボランティア活動・教育は《現状の説明》小項目12.0.1の説明を読みますと「聖和幼稚園の預かり保育（延べ118名）、病弱児保育（延べ20名）、子どもセンターの発達支援事業（2名）および子ども・子育て支援事業（11名）、こうべ市民福祉振興協会主催の障害児ファミリーデイキャンプ（30名）、神戸市社会福祉協議会主催障害児の地域支援事業（運動遊び補助ボランティア）（延べ20名）、東日本大震災関連 一歩スマイルプロジェクト（延べ6名）など」に、合計207余名が参加し活発に参加している様子が窺えます。また、「ボランティア支援担当教員を1名」おいたり、素晴らしい状況ですが、Bと評価したのは何が不足しているのでしょうか。その部分を補ってAに評価されることを期待します。

○ボランティアは、あくまでも本来業務である授業の合間の活動ですから、オーバーワークにならないようにしたいものです。

【学内】

○ボランティア活動の支援、把握の体制が整えられ、学生のボランティア活動もよく行われており、評価できます。

○入学式、卒業式等、さまざまな機会を用いて、ミッションステートメント、建学の精神、教育理念等とおしてキリスト教の奉仕の精神について伝えるとともに、新たに「ボランティアのしおり」を作成し、ボランティアの意義や諸注意などについても説明を行っています。さらには、校務分掌として、ボランティア支援担当教員1名を配置しました。学生たちのボランティアへの参加は延べ200名を越えています。このことは、ボランティア活動・教育の成果と評価したいと思います。

○目標を着実に実行に移されています。

○昨年度の学内第三者評価にも対応されています。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

★ 学内第三者評価＜評価専門委員会の評価＞のコメントについて再検討した結果、目標1の進捗評価を「B」から「A」に変更する。

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	13 国際交流
中項目	
小項目	13.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	13.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性
小項目	13.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際理解のための教育 (KG2) 国際協力の実践

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 短期大学における国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の明確化	→国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定	D	D	D	/	/
2. グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進	→国際理解に関連する授業、学校礼拝、その他のプログラムの実施状況	D	D	C	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

小項目 13.0.1	13.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ○ 明示している ● 明示していない
	(方針) (説明) 国際交流についての方針は明示できていない。
小項目 13.0.2	13.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
	(説明) 国際交流プログラムについては、本学が単独で主催する研修旅行を実施することは現段階では難しいため、国際交流担当教員が中心となって、業者に保育者養成校である本学にふさわしい教育研修旅行を立案してもらい、その実施時期などについて協議している。また教員の留学に関する規程を制定した。
小項目 13.0.3	13.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。
	(説明) 幼稚園、保育所、施設などの実習では、外国籍の子どもを保育するなど、多文化に触れる経験も多くなっているが、国際教育・協力のための単独の授業科目の設置はカリキュラムが過密のため難しいのが現状である。授業や学校礼拝において、海外ボランティア経験のある卒業生等の話を聞くなど、学生の国際理解を高める場を積極的に設けている。
その他	

《評価指標データ》

- ☆
- ☆
- ☆

--	--

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

☆	小項目 13.0.1	
	小項目 13.0.2	
	小項目 13.0.3	
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

☆	小項目 13.0.1	
	小項目 13.0.2	
	小項目 13.0.3	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

☆	小項目 13.0.1	国際交流についての方針が明示できていない。
	小項目 13.0.2	学生が参加できる海外研修旅行のプログラム提供ができていない。
	小項目 13.0.3	国際教育・協力について深めるための教育方法の検討ができていない。
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

☆	小項目 13.0.1	国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針を策定し、明示する。
	小項目 13.0.2	2013年度海外研修旅行のプログラム提供に向けて、さらに準備を進める。また関西学院大学国際教育・交流センター（CIEC）との連携を図る。
	小項目 13.0.3	外国籍の人とのコミュニケーション能力を持った保育者を育てるための教育内容について検討する。
	その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 ＜評価専門委員会の評価＞

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○社会全体がますます多国籍化しているのに応じて、保育の現場でも様々な国籍を持つ子供たちが増えています。その状況の中で国際理解教育の重要性は、喫緊の要事かと思えます。本来そのためのカリキュラムが組まれることが期待されますが、カリキュラムの過密により単独で授業科目の設置が無理な場合、（一人権教育が保育者養成関連科目の中で行われているように）国際理解教育もいずれかの科目の中で一部でも含ませることはできないのでしょうか。

○13 国際交流は、「1. 短期大学における国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の明確化→国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定」は。過去3年続けてDで、「D：目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。」に該当します。国際化時代ですから、努力する計画や方策を作成するように、担当部局を決めて推進してください。

○「2. グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進」ではD→Cに進捗しました。この項目も、計画と目標をたてて進められることを期待しています。

【学内】

○外国籍の子供の保育の可能性も広がっているようで、目標に掲げている、国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進を進めることが期待されます。

○国際交流については、学問領域の性格上難しい点があることは否めません。しかし、進捗状況評価シートにも記載のように、目標として「グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進」を掲げられており、それは、「幼稚園、保育所、施設などの実習では、外国籍の子どもを保育するなど、多文化に触れる経験も多くなっている」という現状からも妥当なものと思われます。ついでに、改善すべき事項に記されている、3つのできていないことの実現化への努力が求められます。

○本項目は、保育を教育課程とする短期大学では大変困難な項目です。しかしながら、その中でどのような国際交流が可能か、継続した検討に期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

☆ なし

進捗状況報告シート

(2012年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	14 危機管理
中項目	
小項目	14.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2011.5.1～2012.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 短期大学が管理すべき危機の整理、検討および危機管理の基本方針、体制の確立	→危機管理基本方針の策定および実施マニュアルの作成の実施状況	C	B	B		
2. 全構成員の危機管理意識向上のための研修会および避難訓練等の開催	→研修会および避難訓練等の実施状況	D	D	C		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

本項目の小項目ごとの現状は次のとおりである。

☆	小項目 14.0.1	14.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。 (説明) 今年度は関西学院ソーシャルメディア・ガイドラインに基づき、「聖和短期大学ソーシャルメディア利用について」を作成し、学生全員に配布して注意喚起を行った。学内での急病や事故等に対しては「関西学院救急マニュアル(西宮聖和キャンパス版)」を短期大学事務室に設置し、学生に配付する「要覧」に避難場所およびAED、非常通報装置等設置場所を記載し、学内での緊急時の避難等についてオリエンテーション等で説明している。特に外部者を対象とした行事(入学試験や夏の研修会等)前には、避難方法、避難経路、連絡体制についてその都度、確認しているが、すべての災害に対応可能なマニュアルがないので、職員が危機管理の研修会に参加するなど、マニュアル作成に向けて検討している。
	その他	

《評価指標データ》

☆	
☆	
☆	

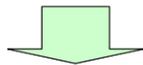
◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、効果が上がっている事項は次のとおりである。

★	小項目 14.0.1	
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

効果が上がっている事項の次年度に向けた方策（伸長させるための方策）は次のとおりである。

★	小項目 14.0.1	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

点検・評価の結果、改善すべき事項は次のとおりである。

★	小項目 14.0.1	危機管理全体についてのマニュアルが策定できていない。
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

改善すべき事項の次年度に向けた方策（改善方策）は次のとおりである。

★	小項目 14.0.1	2012年度中に基本方針とマニュアル案を策定する。また全構成員の危機管理向上のための研修会および避難訓練の実施に向けてキャンパス連絡協議会等で検討する。
	その他	

◎自由記述

上記以外は次のとおりである。

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価 <評価専門委員会の評価>

Ⅱ. の自己点検・評価について、評価専門委員会のコメントは次のとおりである。

【学外】

○14 危機管理は、災害や事故・暴漢が無いと忘れてしまいがちなことです。階層構造からみても、一番重要な基礎部分に位置する項目です。その上部に、人権、キリスト教教育、教科学習内容が積み重ねられていくのだと思います。学校は18年前の阪神淡路大震災の被害にあった出来事を忘れずに進めていきたいものですね。「→研修会および避難訓練等の実施状況」はD→Cに進捗し良いと思いますが、あと一步の努力が求められます。

【学内】

○危機管理全体についてのマニュアルの作成が期待されます。

○危機管理に関する取り組みは聖和短期大学のみならず関西学院全体としての取り組みが必要な項目だと思います。聖和短期大学だけで取り組む必要があるもの、関西学院全体として取り組みが必要なものと切り分けて検討することが必要かも知れません。危機とは災害だけではありません。短期大学にとっての危機とは何かの定義からはじめるといった大きな視点からの取り組みが必要ではと思われま。

○本項目は、事前に備えておくべきことです。各ケースを想定し、それが実践できるよう日頃からご努力ください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

Ⅲ. の学内第三者評価を受け、次のとおり追加記述を行う。

★	なし
---	----